

とうきょうとしょうがいしゃさべつかいしょうしえんちいききょうぎかい
東京都障害者差別解消支援地域協議会

しょうがいしゃりかいそくしんおよさべつかいしょう
障害者への理解促進及び差別解消のための

じょうれいせいていかかけんとうぶかいだいかい
条例制定に係る検討部会（第4回）

へいせいねんがつにちきん
平成29年6月30日（金）

とうきょうとふくしほけんきょくしょうがいしゃしさくすいしんぶけいかくか
東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課

午後5時00分 開会

○高原部長 それでは、定刻となりましたので、まだいらしていない委員の方も
若干いらっしゃいますが、おいおいいらっしゃるとお思いますので、ただいまから
第4回の東京都障害者差別解消支援地域協議会、障害者への理解促進及び差別
解消のための条例制定に係る検討部会を開催させていただきます。

本日は皆様、お忙しい中 ご出席 をいただきまして、まことにありがとうございます。
障害者施策推進部長、高原でございます。本日は、第4回目の部会開催
となります。まず、お手元に配布してございます議事資料につきまして、確認を
させていただきます。

○下川課長 障害者施策推進部の共生社会推進担当課長の下川と申します。

本日お手元にお配りしております資料を確認させていただきます。

次第のほか、同じダブルクリップの中ですけれども、資料1、議事（1）です
が、検討部会第3回、前回における意見の概要というものが2枚ほどの資料です。
その次に、資料2としまして議事（2）に関する資料が1枚、それから次、資料
3として議事（3）相談・紛争解決の仕組みに関する資料が3枚ほどございます。
その後、資料4、事業者ヒアリングの実施について、そして資料5、今後の検討
スケジュール（予定）となっておりまして、そのほか参考資料といたしまして、
参考資料ア、2枚ほどの資料です。そして、参考資料イ、これが何枚かホチキス
どめになっています。そして、参考資料ウは、前回、第3回の部会の議事録でござ
います。

そのほか、本日予定しておりますゲストスピーカーの方々からの提供資料とい
うことで、ゲストスピーカー提供資料①と②をそれぞれホチキスどめをご用意を
しています。

それから、②のほうで高山さん、ゲストスピーカーですけれども、高山代表か
らは、この黄色い冊子「Working Design Book」という冊子についてもきょう
ご提供していただいておりますので、あわせて配布をしています。

それから、本日の資料につきましては、今回もルビ振り版の資料もあわせて机
の上に置かせていただいておりますので、ご参照いただければと思います。

それから、これも前回までと同様ですが、ファイルです。緑のものと赤いもの
とファイルとじ込みの資料、それからイエローカードを机の上に置かせていただい

ております。資料の説明は以上でございます。落丁などございましたら、事務局までお声かけをお願いいたします。資料のほうは、大丈夫でしょうか。

続きまして、議事に入らせていただく前に、本日の出欠状況についてご説明をいたします。

本日はすけれども、小池育英委員は、所用によりご欠席のご連絡をいただいております。また、秋山委員については本日ご欠席ということで、自立生活センター・日野事務局次長の藤田博文様に代理でご出席をいただいております。ありがとうございます。ほか、中島委員、小池巳世委員、保坂委員につきましては、特段ご連絡をいただいておりますので、遅れてお見えになるものと思われま

それから、本日はゲストスピーカーということでお二人、中途失聴・難聴者協会の新谷理事長さんに後ろの席になりますけれども、来ていただいております。

もう一人、「大人のA D H Dストーリー」の関係でNPO法人えじそんくらぶの高山代表にもご足労いただくことになっているんですが、追ってお見えになると思

続きまして、進行上のお願いもあわせて申し上げておきたいと思

まずご発言される際には、どなたが発言されているのか確認ができるように、ご所属とお名前を最初をお願いをしたいと思います。

それから、手話通訳が本日入っておりますので、ご発言の際には、少しゆっくりお話をいただければというふうに思

また、本部会ですけれども、先ほど資料のところでお話ししましたイエローカードが皆さんのお机の上にあると思

最後ですけれども、本部会は資料、議事録、いずれも原則公開とさせていただきますので、発言に当たりましては個人情報などにご配慮ください。

また、本日は傍聴者の方もいらっしゃいますので、ご承知おきいただきますようによろしくお願

よろしくお願^{ねが}いします。

○川内^{かわうち}部^ぶ会^{かい}長^{ちやう} 部^ぶ会^{かい}長^{ちやう}の川内^{かわうち}です。よろしくお願^{ねが}いします。

では、きょうは時間^{じかん}がないんです。いろいろな議^ぎ論^{ろん}があります。

きょうの議^ぎ事^じは3点^{てん}あります。

1つ目^めは、「前^{ぜん}回^{かい}の議^ぎ論^{ろん}の振^ふり返^{かえ}り」です。それから、2つ目^めが前^{ぜん}回^{かい}に続^{つづ}いて「情^{じやう}報^{ほう}保^ほ障^{しょう}の推^{すい}進^{しん}」ということでご議^ぎ論^{ろん}いただきたい。それから、3つ目^めが新^{あた}しい項^{こう}目^{もく}ですけれども、「相^{そう}談^{だん}・紛^{ふん}争^{そう}解^{かい}決^{けつ}の仕^し組^くみについて」です。

まず、最初^{さいしよ}の「前^{ぜん}回^{かい}の議^ぎ論^{ろん}の振^ふり返^{かえ}り」について、事^じ務^む局^{きよく}のほうからご説^{せつ}明^{めい}を
お願^{ねが}いします。

○下^{しも}川^{かわ}課^か長^{ちやう} それでは、ご説^{せつ}明^{めい}させていただきます。資^し料^{りやう}1をこらんください。

前^{ぜん}回^{かい}、第^{だい}3回^{かい}の部^ぶ会^{かい}の議^ぎ事^じは3つ、「団^{だん}体^{たい}ヒア^ひリ^りン^んグの結^{けつ}果^かについて」と
「前^{ぜん}回^{かい}の議^ぎ論^{ろん}の振^ふり返^{かえ}り」「情^{じやう}報^{ほう}保^ほ障^{しょう}の推^{すい}進^{しん}について」でした。

主^{おも}な意^い見^{けん}ですが、まず「団^{だん}体^{たい}ヒア^ひリ^りン^んグの結^{けつ}果^かについて」ご説^{せつ}明^{めい}をさせていた
だいたところで、秋^{あき}山^{やま}委^い員^{いん}のほうからでしたが、女^{じょ}性^{せい}の障^{しょう}害^{がい}者^{しゃ}が受^うける複^{ふく}合^{ごう}的^{てき}な
差^さ別^{べつ}について、事^じ例^{れい}を挙^あげてご説^{せつ}明^{めい}をいただきました。

それから、議^ぎ事^じの2番^{ばん}、「事^じ業^{ぎやう}者^{しゃ}の責^{せき}務^むの内^{ない}容^{よう}に関^{かん}して」ですが、枠^{わく}に示^{しめ}して
いるのが部^ぶ会^{かい}のときはこちらから提^{てい}示^しさせていただいた論^{ろん}点^{てん}です。

主^{おも}な意^い見^{けん}として、不^ふ動^{どう}産^{さん}、交^{こう}通^{つう}、宿^{しゆく}泊^{ぱく}施^し設^{せつ}などの分^{ぶん}野^やは、生^{せい}活^{かつ}への影^{えい}響^{きやう}の大^{おほ}
きさから決^{けつ}定^{てい}的^{てき}に配^{はい}慮^{りょ}が必要^{ひつよう}なので、事^じ業^{ぎやう}者^{しゃ}を一^{ひと}くくりにせ^せずに分^{ぶん}類^{るい}をして考^{かんが}
える必要^{ひつよう}があるというようなご意^い見^{けん}をいただきました。

それから、次^{つぎ}のペー^{てつ}ジにまいりますが、そのほかに鉄^{てつ}道^{どう}駅^{えき}のエレベーターな
ど施^し設^{せつ}のバ^かリ^{かん}ア^いフ^{けん}リ^{おほ}ー化^{おほ}などに関するご意^い見^{けん}が多くありました。

そこで参^{さん}考^{こう}ま^までに、こ^こに図^ずで^{しめ}お示^{しめ}しをしておりますけれども、障^{しょう}害^{がい}者^{しゃ}差^さ別^{べつ}
解^{かい}消^{しょう}法^{ほう}とバ^かリ^{かん}ア^いフ^{けん}リ^{おほ}ー法^{ほう}との関^{かん}係^{けい}を、ご説^{せつ}明^{めい}をさせていただきたいと思^{おも}います。

まず公^{こう}共^き施^し設^{せつ}の整^{せい}備^び基^き準^{じゆん}については、不^ふ特^{とく}定^{てい}多^た数^{すう}が利^り用^{よう}するを前^{ぜん}提^{てい}にバ^かリ
ア^あフ^ふリ^りー法^{ほう}などで定^{さだ}められていま^す。この図^ずでは、下^{した}のほうに「ハ^{たい}ードの対^{たい}応^{おう}」
というようなことで示^{しめ}させていただいていま^す。一方^{いつぱう}、その情^{じやう}報^{ほう}にかぶさってい
るような形^{かたち}で差^さ別^{べつ}解^{かい}消^{しょう}法^{ほう}ですが、ハ^{せい}ードの整^{せい}備^びなどについては、「環^{かん}境^{きやう}の
整^{せい}備^び」という規^き定^{てい}の中^{なか}に含^{ふく}まれていて、事^じ業^{ぎやう}者^{しゃ}などの一^{いっ}般^{ぱん}的^{てき}な責^{せき}務^むとして定^{さだ}めら
れていま^す。そして、個^こ々^この利^り用^{よう}者^{しゃ}さんに対^{たい}する「不^ふ当^{たう}な差^さ別^{べつ}的^{てき}取^と扱^{あつか}い」や

「合理的配慮の提供」に関して規定をしていますが、「合理的配慮の提供」には施設や設備の整備までは含まれていないというふうに考えています。

次に、議事の3「情報保障の推進」に関してですけれども、こちらは本日も継続して議論をしていただきます。

論点①「情報保障の推進について」は、佐々木委員と越智委員からそれぞれご発言をいただきました。

3ページです。ルビ振り版だと4ページにあると思います。その内容を少しまとめて書かせていただいています。その後の議論では、主な意見、1つ目ですが、情報保障においては、「受け手がその内容をわかるように」説明するという視点が大切とのご意見ですとか、下から2つ目ですが、手話などのコミュニケーション手段は、「障害のある人のため」だけではなく、障害のない人のために必要な支援でもあるというような意見をいただきました。

続いて、4ページ、最後のページになりますけれども、次の論点で「言語としての手話について」ということでご議論いただいております。ここでは、委員発表してくださった越智委員から、できれば独立した手話言語条例が望ましいけれども、この条例に趣旨を盛り込むことも考えられるといったご発言をいただいております。説明については、以上でございます。

○川内部長 ありがとうございます。川内です。

バリアフリー法、私はそっちの専門なので、私のほうから少しご説明をしたいと思いますが、皆さんの資料1の2ページの図をごらんください。

ここにバリアフリー法と、それから障害者差別解消法の図がありますけれども、バリアフリー法というのは、基本的にはハードです。鉄やコンクリートをどうするかということを決めてあって、そこでちゃんと利用者が使えるようにということとは言っていないので、ではきちんと使えるようにするにはどうするかということで、もちろん、例えばスロープをつくれというのはバリアフリー法で、この角度でつくれというのは言っていますけれども、それが使えない力の弱い人がそのスロープに行ったときに、それを何とか助けて使えるようにしようというようなことはバリアフリー法では言っていないわけです。それは、差別解消法のほうの合理的配慮の提供ということになります。

しかも、バリアフリー法というのは面積の制限があって、一定の大きさのもの

よりも^{うえ}でないと適用^{てきよう}にならないということ、それからどんなに^{おお}大きい建物^{たてもの}でも、特に改造^{とく かいそう}とか増築^{そうちく}とか、もちろん新築^{しんちく}もですが、そういう建築^{けんちく}の工事^{こうじ}が行^{おこな}われな
い場合にはバリアフリー^{ばあい}だけをやれということは求めない法律^{もと ほうりつ}なわけです。

ですので、いっぱい抜け道^{ぬ みち}があるわけです。抜け道^{ぬ みち}というか、バリアフリー^{ほう}法があっても、それが実際^{じっさい}に動かない建物^{うご たてもの}というのがたくさんあって、それをカバー^{ごうりてきはいりょ}するのが合理的配慮^{ごうりてきはいりょ}ということになります。

合理的配慮^{ごうりてきはいりょ}の場合は、建設的対話^{けんせつてきたいわ}ということがとても重要^{じゅうよう}になってくるので、
実際^{じっさい}にさまざまな問題^{もんだい}が出てくるだろうと思いますけれども、そのときに差別^{さべつ}
解消法^{かいしょうほう}で想定^{そうてい}しているのは両者^{りょうしや}でけんかにならないように、けんかが起きないよ
うにうまく話し合^{はな あ}って解決^{かいけつ}してくださいと。そのときには人の助け^{ひと たす}もあるかもし
れないし、あるいはとても小さな木製^{ちい もくせい}のスロープ^{ちい もくせい}をそこに掛けてあげることが
解決策^{かいけつさく}にもなるかもわからないけれども、そういう詳しいことは何^{なん}にも書いてい
ないんです。両者^{りょうしや}の話し合^{はな あ}いの中で決めてくださいというようなことを言^いっていま
す。

ということで、バリアフリー^{ほう}法と差別解消法^{さべつかいしょうほう}というのは、カバー^{ふんや}する分野^{ふんや}が
ちょっとずつ違^{ちが}っているというか、2つがうまく動^{うご}かないと、きちんと使^{つか}えるとい
うことにはならないというようなことになっています。

おおよそそのようなことでご理解^{りかい}いただければと思いますが、今^{いま}の私^{わたし}の説明^{せつめい}に
対^{たい}する質問^{しつもん}も含めて、今事務局^{ふく いまじむきょく}からご説明^{せつめい}があった前回の議論^{ぜんかい}の振り返^{ぎろん}りにつ
いて、ご意見^{いけん}、ご質問^{しつもん}のある方はご発言^{かた はつげん}をお願いしたいと思^{おも}います。

先ほどの事務局^{さき}からの説明^{しむきょく}であったように、前回^{ぜんかい}いろいろな議論^{ぎろん}があった中で、
単^{たん}に情報発信^{じょうほうはっしん}するだけでなく、受け手^{う て}がきちんとわかるような情報発信^{じょうほうはっしん}の
仕方^{しかた}が必要^{ひつよう}なのではないかとか、それから手話^{しゅわ}というの——まあ、ほかのものも
そうですけれども、コミュニケーション^{しゅだん}の手段^{しゅだん}というのは双方^{そうほう}にとって必要^{ひつよう}な
支援^{しえん}であるというような視点^{してん}、それから女性^{じょせい}は特に重ねた差別^{とく かさ}を受け^{さべつ う}ているんだ
というような視点^{してん}というようなものが語^{かた}られました。

それから、手話^{しゅわ}のコミュニケーション手段^{しゅだん}としての重要^{じゅうようせい}性、あるいは文化^{ぶんか}の
継承^{けいしょう}としての重要^{じゅうようせい}性というようなことの越智委員^{お ち い いん}からの発言^{はつげん}がありました。

これらについて何かご質問^{なに しつもん}、ご意見^{いけん}があれば、発言^{はつげん}をお願いしたいと思^{おも}います。
発言^{はつげん}がないようですが……どうぞ、高見^{たかみ}さん。

○高見委員 東難連の高見と言います。よろしくお願いします。

今座長から説明がありましたバリアフリー法のことですが、バリアフリー法をカバーするのが差別解消法という合理的配慮であると言う事でした。僕は新たに認識したんですが、実際、二日前の話になりますけれども、各々事業所においてバリアフリー法に基づいて取り組まれていると思うのですが、その事業者の内規で適用された場合にいろいろな問題が起きてくるような気がするんですが、例えばこの報道だと、行きは飛行機に乗れたけれども、帰ってくる時には乗れなかったという問題が出ました。あのような場面というのは、どのような解決があるのか、両方の言い分をどのように解決されていくべきなのか、ちょっと僕にはわからないのですが、教えていただければありがたいです。

○川内部会長 川内です。これは私が答えるんですか。ちょっとわかりません。じゃ、これは私の個人的な見解だと思ってくださいね。こちらの専門の池原さんとか関哉さんは別の考え方があるかもしれませんが。

まず差別解消法では、障害に基づく差別をしてはいけません。だから、歩けない人を飛行機に乗せないというのは、もう差別なんです。だけどバニラエアは——固有名詞を言っているのかな、わからないけれども、あの便に車椅子を使う方がいる場合は事前に言ってくださいと言って、事前に言えばお断りしていると言っているんです。つまり、歩けないから断るという、これはもう差別です。だから、断っちゃいけないんです。これは差別解消法に違反しています。ただし、受け入れますよ。だけど、あなたを運ぶのは大変なので、それは過重な負担なので運ぶことはできませんということになると、これは合理的配慮の分野になってきて、これは義務ではないので、合理的配慮を提供するように努めることということに決まっているので、だから、バニラエアはそういう運ぶということについて、職員の腰痛の心配があるから運びませんでしたということを行うことはできるというのが、差別解消法での枠組みになっていると思います。

今回ややこしいのは、行き道は友人の介助で行けて、帰り道はそれを認めなかったという、これは明らかに従業員が悪いのか、マニュアルが悪いのかわからないけれども、どっかその辺の内部のものに、内部での決まり事に問題があるんだろうというふうに思いますけれども、それを、ではバリアフリー法でチェックするというような仕組みはバリアフリー法にはないので、今おっしゃったように

内部^{ないぶ}で決められてしまうと、こういう問題^{もんだい}が表^{おもて}に出ない限り^で、なかなかわからないというようなことになると思います。

物^{もの}すごくすっきりしない顔^{かお}をされていますけれども、どうでしょうか。

○高見委員^{たかみ いん} やはり流^{なが}れてくることというのは、それぞれの立場^{たちば}で当事者^{とうじしゃ}を批判^{ひはん}する人^{ひと}もいれば、それこそ我々^{われわれ}仲間同土^{なかまどうし}だと当たり前^{あたりまえ}だなというふう^{おも}に思ったりもすることがあって、そういうところ^{もんだい}でいろいろ問題^おが起きてくるということが日常^{にちじょう}あるんです。

僕^{ぼく}自体^{じたい}も、この前^{まえ}押上^{おしあげ}に行った^いときに、町屋^{まちや}の地下鉄^{ちかてつ}から北千住^{きたせんじゅ}で乗りかえて押上^{おしあげ}へ行ったときに、ずっと帰^{かえ}れたんですが、帰^{かえ}りになると、乗りかえるときに町屋^{まちや}まではこの切符^{きっぷ}では行^いけませんって。行^いくときは行^いけたのに、帰^{かえ}るときは帰^{かえ}れなかったりという、そういう問題^{もんだい}が日常生活^{にちじょうせいかつ}の中で多々^{なかた}あるので、どうやって周知^{しゅうち}をしていってもらえばいいかということが何か^{なに}いつも感^{かん}じることなんですけれども。

○川内^{かわうち}部会長^{ぶかいちょう} では、中島^{なかじま}さん。

○中島委員^{なかじま いん} 私^{わたし}も車椅子^{くるまいす}の子供^{こども}がいて、今^{いま}は一緒^{いっしょ}に暮^くらしていませんけれども、こういう経験^{けいけん}もいろいろしたのでわかるんですけれども、私^{わたし}のここにいる立場^{たちば}として、経済学^{けいざいがく}をやっている人間^{にんげん}から言^いうと、結局^{けっきょく}配慮^{はいりょ}するということは、それなりのコスト^{だれ}をかけるということになるので、誰^{だれ}がどれだけコスト^{ふたん}を負担^{ふたん}するかという話^{はなし}になってくるんです。これは、あけすけな話^{はなし}で言^いうとです。もちろん、それが善意^{ぜんい}に基^{もと}づくものだったり、親切^{しんせつ}に基^{もと}づくものだったりするものもあるんですけれども、そういうものをしていくには人手^{ひとで}が必要^{ひつよう}だったり、設備^{せつび}が必要^{ひつよう}だったり、ほかの何か^{なに}人のシフト^{ひと}を変^かえなきゃいけなかったりということで、要^{よう}するに金^{かね}がかかってくると。

では、それを誰^{だれ}がどれだけ負担^{ふたん}するかという話^{はなし}になってくると思う^{おも}うんです。そのときに、恐^{おそ}らくさっき言^いわれたような配慮^{はいりょ}というのは、配慮^{はいりょ}しなきゃいけないことは確^{たし}かなんですけれども、その配慮^{はいりょ}を誰^{だれ}がするのかというときに、今回^{こんかい}の場合^{ばあい}だと当事者^{とうじしゃ}の方がかなり配慮^{はいりょ}のコスト^{はら}を払^{はら}っちゃったみたい^{かん}な感じになっていて、それが払^{はら}い過ぎ^すだったのか、もう少し航空会社^{こうくうがいしゃ}がどうすべき^{すこ}だったか、あるいは周り^{まわ}のお客^{きやく}がどうすべき^{すこ}だったかと。では、それを今度^{こんど}料^{りょう}金^{きん}に乗^のっけてくるということになれば、その料^{りょう}金^{きん}はほかの乗^{じょう}客^{きやく}が負担^{ふたん}する、配慮^{はいりょ}のコストは

負担する。あるいはそれを税金でやるということになれば、国民が広く負担する。要は、いろいろな人が何らかの形で負担しないと、配慮というのはできないわけなんです。それを今回、この最初のところで交通等のインフラ系というのは、かなり高レベルな配慮が必要だと僕は思うんです。だけど、ではそのコストを誰が負担するかという話になったときには、そこはある程度開かれた問題で、国民的な議論が必要なのかなという感じがします。

この間も御茶ノ水駅の話が出て、あれはとんでもないんです。だけど、あの狭さのところで、ではどうやってエスカレーターをつけるのかとか、エレベーターをつけるのかという問題があって、あれを全部やろうとしたら莫大なコストがかかってくると。あえてそれをやるかどうかというのは、それは乗客が運賃の形で負担するというやり方もあるし、いろいろな方法があるんですけども、そこをこの条例に書き込んでいく際には、ある程度開かれた問題で、議論が必要だということは、僕はある程度必要かなと思います。

つまり、インフラ系は絶対バリアフリーにとって責務は重いんだけど、でも、その配慮のコストを誰が負担するかというところは少し開かれているという形にしておかないと、一方的に誰かが負担しなきゃいけないということになると、非常に不幸な結果になるような気が私はします。以上です。

○川内 部長 ありがとうございます。そういうことも含めて、障害のある方が社会参加する必要性、あるいは希望というものと、それから世界的なそういうものに対する考え方、そういうものも社会に理解してもらわないといけない。全体の社会の理解の中で、では、それはお金を払おうとか、負担しようというような話になっていくんだろうというふうに思います。ということで時間が来ているんですが、何かご意見はありませんでしょうか。では、どうぞ。

○山下 委員 青梅学園の山下です。

本当は今の件についてもあるんですけども、別の件で、手話の話なんですけれども、この間、日本手話と日本語対应手話があるということを初めて知ったところなんです。私は大学のときに友達が手話サークルで覚えてきた手話を覚えたいんです。自分の自己紹介ぐらいはできます。それから、指文字ぐらいはできます。もう手話については、僕は日本語対応、ここのところは越智さんや何かの意見を聞かないとだめなんですけれども、今回の法律でそうなるのかどうかはわ

かりませんけれども、日本語対応手話のイロハ的なこと、この間配られたパンフレットぐらいのことは全都民が知っていてもいいんじゃないかな。少しぐらい、せめて自分の名前とか何歳であるとかというのを手話で表現ができる、あるいは手話で表現されたことが少しわかるというようなところというのは、この辺、合理的配慮になるのかどうかわかりませんが、この法律でも定められないかどうかわからないんですけれども——この条例ですね。でも、そのぐらいのことは、もう手話法ではなくても必要なんじゃないかなというふうにこの間の話を聞いていて考えました。以上です。

○川内部会長 ありがとうございます。今のは感想というふうに受けとめてよろしいでしょうか。

○山下委員 そうですね。どう扱うか、よくわからないですけれども。

○川内部会長 そのようなことも含めての——鳥取でしたか、手話言語条例というのをつくったりというような動きも出ているというところだと思います。

ほかにありませんでしょうか。

○越智委員 東聴連の越智です。ご意見、いろいろありがとうございます。

手話の場合は言語でもありますが、大切なコミュニケーションでもあります。都民にもコミュニケーションとしての手話を覚えてもらう。それはとても重要なことだと思います。先日配ったパンフレットを使って手話の啓発をやっております。そのあたりもぜひ含めていただければと思います。

それから、また別に、今回の論点の中で③番目について少々補足をさせていただきます。こちらに書いてありますが、情報保障というのは、聞こえない立場から言えば、聞こえない立場の者だけが必要ではなくて、相手、例えば病院に行った場合には、患者を診る医師の立場でも必要なわけです。必ずしも当事者だけが必要なわけではない。

五、六年前に自立支援法が始まったときに、一律10%負担という問題が起きました。私たちにとっては、コミュニケーションについては当事者だけが負担するというものではないと思っています。自己負担がないようにというふうに思い、運動を進めてきました。

全国のほとんどの自治体では負担はなしということになりましたけれども、ごく一部ですが、結局負担になってしまったという地域もございます。東京の中

でも、^{ざんねん}残念ながら二、三^{ちいき}地域、自己^{じこふたん}負担^{ひつよう}が必要^{みなお}なところがあります。ぜひ見直して、自己^{じこふたん}負担はなしというふうにしていきたいと思っております。

○下川^{しもかわかちょう}課長 すみません、事務局^{じむきょく}からよろしいでしょうか。

多分^{たぶん}、今の越智^{いま}さんのご^お発言^{はつげん}は、資料^{しりょう}2のほうに入っているかと思ひます。時間^{じかん}のこともございます。できれば、先に進めていただいてもよろしいでしょうか。申しわけございません。

○川内^{かわうちぶかいちょう}部会長 情報^{じょうほう}保障^{ほしょう}の推進^{すいしん}のほうに入っていますので、そちら、資料^{しりょう}2のほうに進^{すす}んでいこうと思ひますけれども、この件^{けん}を議論^{ぎろん}するときに現場^{げんば}の声^{こえ}というか、当事者^{とうじしゃ}のお話^{はなし}で、今越智^{いまおち}さんは手話^{しゅわ}を主な言語^{おもげんご}とされていますけれども、もう一人、難聴^{ひとりなんちょう}の方^{かた}というような方がいらっしゃって、きょうは新谷^{しんたに}さん、東京都^{とうきょうと}中途失聴^{ちゅうとしつちよう}・難聴者^{なんちょうしゃ}協会^{きやうかい}の新谷^{しんたに}理事長^{りじちよう}がいらっしゃっていますので、新谷^{しんたに}理事長^{りじちよう}からご^お発言^{はつげん}をお願い^{ねが}したいと思ひます。

○新谷^{しんたに}様 今ご紹介^{いましょうかい}いただきました新谷^{しんたに}です。

私^{わたし}は声^{こえ}を出^だしていますけれども聴覚^{ちやうかく}障害^{しやうがい}、いわゆる中途失聴^{ちゅうとしつちようもの}者^{もの}です。40ぐらいから聴^{ちやうりよく}力がずっと低下^{ていか}していきまして、50歳^{さい}ぐらいでほとんど聞き取り^{きと}が難^{むずか}しくなったという、いわゆる中途失聴^{ちゅうとしつちようしゃ}者^{しゃ}。聴覚^{ちやうかく}障害^{しやうがい}の中には、ろう者^{なか}、それから難聴^{なんちょうしゃ}者^{しゃ}、それから中途失聴^{ちゅうとしつちようしゃ}者^おという大きなグループがあるんですけれども、中途失聴^{ちゅうとしつちようしゃ}者^{しゃ}、もしくは難聴^{なんちょうしゃ}者^おの立場^{たちば}でちょっとお話をしたいと思ひます。

資料^{しりょう}の1枚目^{まいめ}の下^{した}のスライドですけれども、私^{わたし}たち中途失聴^{ちゅうとしつちよう}・難聴^{なんちょうしゃ}者^{もと}が求める社会^{しゃかい}というのはどんなものかという、1対1^{いったいいち}のコミュニケーション^{ばあい}の場合^{ばあい}には、聞こえることもあるけれども、聞こえない場合^{きこえない}には筆談^{ひつだん}で対^{たい}応^{おう}してほしいということがあります。それは、意味^{いみ}は、誰^{だれ}でも、日本人^{にほんじん}であれば書^かくことはできる。日本語^{にほんご}で書^かくことはできるということで、1対1^{いったいいち}のコミュニケーション^{ばあい}の場合^{ばあい}には筆談^{ひつだん}で何かサポ^なートしてくれないかと、そういう社会^{しゃかい}が1つのイメージとしてあります。

そうしたら、1対1^{いったいいち}じゃなくて多人数^{おおにんすう}、1対多数^{いったいたすう}とか、それから多数対多数^{たすうたいたすう}のコミュニケーション^ばの場^ばではどういう配慮^{はいりょ}が欲しいかという、ここに書いておりますように、全^{すべ}ての音声^{おんせい}の情^{じやう}報^{ほう}を文字化^{もじか}してほしいと、ここが私^{わたし}たちのいつも訴^{うた}えるところなんですけれども、とにかく全^{すべ}ての音声^{おんせい}の情^{じやう}報^{ほう}になっている部分^{ぶぶん}は文字化^{もじか}してほしいということです。

そういう社会の文化の中で私たちが中途失聴・難聴者自身は、自分の聞こえを
とにかく直そうと個人レベルでは非常に努力をしています。補聴器を使ったり、
いろいろな治療を受けて自分の聴力を戻そうという努力を個人的には非常にや
っていると。

それから、そういう聴力の回復が難しい場合は、新しいコミュニケーション
手段を身につけようと。例えば、手話でコミュニケーションするとか、口形を読
む、読話の能力をつけるとか、こういうコミュニケーション学習の努力も私た
ちはやっております。

こういう私たちの努力、それから社会のそういう文字化の環境、それと同時
に本当に困ったときは、ここに書いています制度としてのコミュニケーション
支援というものが背後で支える。具体的には手話通訳の準備であったり、要約
筆記の準備であったり、そういう社会を私たちはイメージしております。

このイメージしている社会は、きっとここに書いていますけれども、私たち
難聴者にとって住みやすい社会というのは、多分いろいろな人、全ての人の住み
やすい社会につながっていくのではないかなというふうに思っております。

それで、今回の障害者差別解消法が切り開いている大きな違いというのは何か
というと、1つは障害者差別を訴えることができる障害者の範囲というものが
大きく見方が変わったということです。それは障害者権利条約とか障害者
基本法のレベルでは早くから社会モデルということが言われて、障害者手帳に
こだわらない、社会的障壁と機能障害の間に障害を見ようというような考え
方はあったわけですが、私たちの身近な障害者福祉の世界というのは何
かということ、障害者手帳を持っている人だけがそういう世界の対象なんだと。
障害者というのは、要するに手帳を持っている人だということですずっと進められ
ていました。それで、障害者差別解消法で差別を解消してほしいという人は、
手帳を持っている必要がないということで、障害の範囲が大きく広がった。

次、2ページの上の漫画で言いますと、非常に多くの人が障害者差別を求める
ことができるということになったということは非常に大きなポイントではないか
なと思います。

逆に言えば、障害者差別をしてはいけない人というのは、解消法では「事
業者」とか「行政機関等」という言い方をしておりますけれども、国民の責任

まで^{ひろ}広げて、^{すべ}全ての人が^{ひと}障害者^{しょうがいしゃ}に対して^{たい}差別^{さべつ}をしてはいけないんですよというこ
とを、^{さべつ}差別^{かいしょうほう}解消法^いは言い出^だしている。それから、^{ごうりてきはいりょ}合理的配慮^{ていきょう}の提^{てい}供^{きょう}というの、
^{じぎょうしゃ}事業者^{ぎょうせいきかんと}、^{ほうりつ}行政^{きてい}機関^き等^{とう}という法律^{りつ}の規定^{きてい}になっておりますけれども、^{じつ}実は^{じつ}もっと
^{ひろ}広い^{はんい}範囲^{ひと}の人が^{ごうりてきはいりょ}合理的配慮^{ていきょう}を^{さべつ}提^{てい}供^{きょう}して^ういく。そういう^{がわ}ことで^{さべつ}差別^うを受ける^{がわ}側^{がわ}、そ
れから^{さべつ}差別^{ひと}をしてはいけない^{はんい}人の^{しょうがいしゃ}範囲^{さべつ}が^{かいしょうほう}障害者差別^{おお}解消^{ひろ}法^{ほう}で^{おお}大きく^{ひろ}広がっている
ということが^{だいじ}大事な^{てん}点^{おも}ではないかなと思います。

その^{した}下の^す図^{さき}は、^{わたし}先^{ちゅうとしつちようしゃ}ほど^い私^{いま}は^い中途^い失聴^い者^いという^いふう^いに^い言^いいました^いけれども、^{いま}今^{いま}
^{しょうがいしゃてちょう}障害^も者^{ちようかくしょうがいしゃ}手帳^{かす}を持^{まんにん}っている^{まんにん}聴^{まんにん}覚^{まんにん}障害^{まんにん}者^{まんにん}の数^{まんにん}という^{まんにん}のは、^{まんにん}わ^{まんにん}ずか^{まんにん}45^{まんにん}万人^{まんにん}です。それ
で、^き聞^{こんなん}こえ^{じかく}の^{ひと}困^{ちようさ}難^さを^{ひと}自^{ひと}覚^{ひと}して^{ひと}いる^{ひと}人^{ひと}。まあ、^{ちようさ}いろ^{ちようさ}いろ^{ちようさ}な^{ちようさ}調^{ちようさ}査^{ちようさ}が^{ちようさ}あ^{ちようさ}り^{ちようさ}ま^{ちようさ}す^{ちようさ}け^{ちようさ}れ^{ちようさ}ど^{ちようさ}も、
600^{まんにん}万人^{まんにん}ぐ^{まんにん}ら^{まんにん}い^{まんにん}の^{まんにん}人^{まんにん}が^{まんにん}聞^{まんにん}こ^{まんにん}え^{まんにん}に^{まんにん}困^{まんにん}っ^{まんにん}て^{まんにん}い^{まんにん}る^{まんにん}だ^{まんにん}ろ^{まんにん}う^{まんにん}と。も^{まんにん}っ^{まんにん}と^{まんにん}聞^{まんにん}こ^{まんにん}え^{まんにん}の^{まんにん}障^{まんにん}害^{まんにん}を^{まんにん}自^{まんにん}覚^{まんにん}
して^{まんにん}い^{まんにん}ない^{まんにん}高^{まんにん}齢^{まんにん}者^{まんにん}の^{まんにん}方^{まんにん}ま^{まんにん}で^{まんにん}含^{まんにん}め^{まんにん}れ^{まんにん}ば、^{まんにん}1,000^{まんにん}万^{まんにん}の^{まんにん}オ^{まんにん}ー^{まんにん}ダ^{まんにん}ー^{まんにん}は^{まんにん}超^{まんにん}え^{まんにん}る^{まんにん}だ^{まんにん}ろ^{まんにん}う^{まんにん}と
い^{まんにん}う^{まんにん}に^{まんにん}考^{まんにん}え^{まんにん}ら^{まんにん}れ^{まんにん}て^{まんにん}い^{まんにん}ま^{まんにん}す。

^{しょうがいしゃさべつかいしょうほう}障害^{たいしょう}者^{ちようかくしょうがいしゃ}差別^{まんにん}解^{まんにん}消^{まんにん}法^{まんにん}の^{まんにん}対^{まんにん}象^{まんにん}と^{まんにん}す^{まんにん}る^{まんにん}聴^{まんにん}覚^{まんにん}障^{まんにん}害^{まんにん}者^{まんにん}という^{まんにん}のは、^{まんにん}45^{まんにん}万人^{まんにん}で^{まんにん}は^{まんにん}な^{まんにん}く^{まんにん}て
1,000^{まんにん}万人^{まんにん}を^{まんにん}超^{まんにん}え^{まんにん}る^{まんにん}人^{まんにん}が^{まんにん}対^{まんにん}象^{まんにん}に^{まんにん}な^{まんにん}る^{まんにん}ん^{まんにん}だ^{まんにん}と、^{まんにん}こ^{まんにん}う^{まんにん}い^{まんにん}う^{まんにん}は^{まんにん}頭^{まんにん}の^{まんにん}中^{まんにん}に^{まんにん}入^{まんにん}れ^{まんにん}て^{まんにん}お^{まんにん}く^{まんにん}
^{ひつよう}必^{おも}要^{おも}が^{おも}あ^{おも}る^{おも}か^{おも}な^{おも}い^{おも}う^{おも}ふ^{おも}う^{おも}に^{おも}思^{おも}い^{おも}ま^{おも}す。

それで、^{つぎ}次^{うつ}の^{うつ}ペ^{うつ}ー^{うつ}ジ^{うつ}に^{うつ}移^{うつ}り^{うつ}ま^{うつ}す^{うつ}け^{うつ}れ^{うつ}ど^{うつ}も、^{さき}先^くほ^{かえ}ど^いか^いら^い繰^いり^い返^いし^い言^いっ^いて^いい^いま^いす^いけ^いれ^いど^いも、
^{じゅうらい}従^{わたし}来^うの^う私^{しょうがいしゃふくし}た^{ふくし}ち^{ふくし}が^{ふくし}受^{ふくし}け^{ふくし}て^{ふくし}い^{ふくし}る^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}の^{ふくし}は、^{ふくし}い^{ふくし}わ^{ふくし}ゆ^{ふくし}る^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}福^{ふくし}祉^{ふくし}
サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}。こ^{ふくし}れ^{ふくし}は^{ふくし}法^{ふくし}律^{ふくし}上^{ふくし}の^{ふくし}行^{ふくし}政^{ふくし}義^{ふくし}務^{ふくし}と^{ふくし}し^{ふくし}て、^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}を^{ふくし}受^{ふくし}け^{ふくし}る^{ふくし}人^{ふくし}の^{ふくし}範^{ふくし}囲^{ふくし}、^{ふくし}そ^{ふくし}れ^{ふくし}か^{ふくし}
ら^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}を^{ふくし}提^{ふくし}供^{ふくし}す^{ふくし}る^{ふくし}事^{ふくし}業^{ふくし}体^{ふくし}、^{ふくし}行^{ふくし}政^{ふくし}と^{ふくし}か^{ふくし}が^{ふくし}具^{ふくし}体^{ふくし}的^{ふくし}に^{ふくし}は^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}総^{ふくし}合^{ふくし}支^{ふくし}援^{ふくし}法^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}
^{ほうりつ}法^な律^なの^な中^なで^なか^なり^な厳^な密^なに^な決^なま^なっ^なて^ない^なる^な。こ^なう^ない^なう^な障^な害^な者^なに^な対^なす^なる^な支^な援^なと^ない^なう^なの^なは、
^{じゅうらい}従^{ふくし}来^{ふくし}は^{ふくし}福^{ふくし}祉^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}が^{ふくし}ほ^{ふくし}と^{ふくし}ん^{ふくし}ど^{ふくし}面^{ふくし}倒^{ふくし}を^{ふくし}見^{ふくし}て^{ふくし}き^{ふくし}た^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}流^{ふくし}れ^{ふくし}が^{ふくし}あ^{ふくし}る^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}ふ^{ふくし}に^{ふくし}
^{さき}先^なほ^など^な中^な島^な先^な生^なか^なら^なち^なょ^なっ^なと^なお^な話^なが^なあ^なり^なま^なし^なた^なけ^なれ^など^なも、^な合^な理^な的^な配^な慮^な等^な々^なと^ない^なう^な
^{もんだい}問^{じゅうらい}題^{ふくし}は、^{ふくし}従^{ふくし}来^{ふくし}の^{ふくし}福^{ふくし}祉^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}を^{ふくし}超^{ふくし}え^{ふくし}た^{ふくし}い^{ふくし}ろ^{ふくし}い^{ふくし}ろ^{ふくし}な^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}に^{ふくし}対^{ふくし}す^{ふくし}る^{ふくし}支^{ふくし}援^{ふくし}を^{ふくし}一^{ふくし}体^{ふくし}誰^{ふくし}
が^{ふくし}負^{ふくし}担^{ふくし}し^{ふくし}て^{ふくし}い^{ふくし}く^{ふくし}の^{ふくし}か。そ^{ふくし}れ^{ふくし}で、^{ふくし}考^{ふくし}え^{ふくし}方^{ふくし}と^{ふくし}し^{ふくし}て^{ふくし}は、^{ふくし}社^{ふくし}会^{ふくし}全^{ふくし}部^{ふくし}で^{ふくし}そ^{ふくし}う^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}の^{ふくし}を^{ふくし}負^{ふくし}担^{ふくし}
し^{ふくし}て^{ふくし}い^{ふくし}き^{ふくし}ま^{ふくし}し^{ふくし}ょ^{ふくし}う^{ふくし}と。従^{ふくし}来^{ふくし}は^{ふくし}全^{ふくし}部^{ふくし}税^{ふくし}金^{ふくし}で^{ふくし}面^{ふくし}倒^{ふくし}を^{ふくし}見^{ふくし}る^{ふくし}ん^{ふくし}だ^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}社^{ふくし}会^{ふくし}を^{ふくし}イ^{ふくし}メ^{ふくし}ー^{ふくし}ジ^{ふくし}し^{ふくし}
て^{ふくし}い^{ふくし}た^{ふくし}の^{ふくし}が、^{ふくし}も^{ふくし}う^{ふくし}そ^{ふくし}う^{ふくし}じ^{ふくし}ゃ^{ふくし}な^{ふくし}い^{ふくし}で^{ふくし}し^{ふくし}ょ^{ふくし}う^{ふくし}と。社^{ふくし}会^{ふくし}全^{ふくし}体^{ふくし}が^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}を^{ふくし}支^{ふくし}え^{ふくし}て^{ふくし}い^{ふくし}く^{ふくし}ん^{ふくし}だ^{ふくし}
と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}ふ^{ふくし}う^{ふくし}な^{ふくし}見^{ふくし}方^{ふくし}を^{ふくし}打^{ふくし}ち^{ふくし}出^{ふくし}し^{ふくし}た^{ふくし}の^{ふくし}が^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}差^{ふくし}別^{ふくし}解^{ふくし}消^{ふくし}法^{ふくし}で^{ふくし}は^{ふくし}な^{ふくし}い^{ふくし}か^{ふくし}な^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}ふ^{ふくし}に^{ふくし}
^{おも}思^{おも}い^{おも}ま^{おも}す。

^{さき}先^なほ^など^な中^な島^な先^な生^なか^なら^なち^なょ^なっ^なと^なお^な話^なが^なあ^なり^なま^なし^なた^なけ^なれ^など^なも、^な合^な理^な的^な配^な慮^な等^な々^なと^ない^なう^な
^{もんだい}問^{じゅうらい}題^{ふくし}は、^{ふくし}従^{ふくし}来^{ふくし}の^{ふくし}福^{ふくし}祉^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}を^{ふくし}超^{ふくし}え^{ふくし}た^{ふくし}い^{ふくし}ろ^{ふくし}い^{ふくし}ろ^{ふくし}な^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}に^{ふくし}対^{ふくし}す^{ふくし}る^{ふくし}支^{ふくし}援^{ふくし}を^{ふくし}一^{ふくし}体^{ふくし}誰^{ふくし}
が^{ふくし}負^{ふくし}担^{ふくし}し^{ふくし}て^{ふくし}い^{ふくし}く^{ふくし}の^{ふくし}か。そ^{ふくし}れ^{ふくし}で、^{ふくし}考^{ふくし}え^{ふくし}方^{ふくし}と^{ふくし}し^{ふくし}て^{ふくし}は、^{ふくし}社^{ふくし}会^{ふくし}全^{ふくし}部^{ふくし}で^{ふくし}そ^{ふくし}う^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}の^{ふくし}を^{ふくし}負^{ふくし}担^{ふくし}
し^{ふくし}て^{ふくし}い^{ふくし}き^{ふくし}ま^{ふくし}し^{ふくし}ょ^{ふくし}う^{ふくし}と。従^{ふくし}来^{ふくし}は^{ふくし}全^{ふくし}部^{ふくし}税^{ふくし}金^{ふくし}で^{ふくし}面^{ふくし}倒^{ふくし}を^{ふくし}見^{ふくし}る^{ふくし}ん^{ふくし}だ^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}社^{ふくし}会^{ふくし}を^{ふくし}イ^{ふくし}メ^{ふくし}ー^{ふくし}ジ^{ふくし}し^{ふくし}
て^{ふくし}い^{ふくし}た^{ふくし}の^{ふくし}が、^{ふくし}も^{ふくし}う^{ふくし}そ^{ふくし}う^{ふくし}じ^{ふくし}ゃ^{ふくし}な^{ふくし}い^{ふくし}で^{ふくし}し^{ふくし}ょ^{ふくし}う^{ふくし}と。社^{ふくし}会^{ふくし}全^{ふくし}体^{ふくし}が^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}を^{ふくし}支^{ふくし}え^{ふくし}て^{ふくし}い^{ふくし}く^{ふくし}ん^{ふくし}だ^{ふくし}
と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}ふ^{ふくし}う^{ふくし}な^{ふくし}見^{ふくし}方^{ふくし}を^{ふくし}打^{ふくし}ち^{ふくし}出^{ふくし}し^{ふくし}た^{ふくし}の^{ふくし}が^{ふくし}障^{ふくし}害^{ふくし}者^{ふくし}差^{ふくし}別^{ふくし}解^{ふくし}消^{ふくし}法^{ふくし}で^{ふくし}は^{ふくし}な^{ふくし}い^{ふくし}か^{ふくし}な^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}ふ^{ふくし}に^{ふくし}
^{おも}思^{おも}い^{おも}ま^{おも}す。

^{ぐたいてき}具^{じゆく}体^{ことば}的^{ことば}に^{ことば}は、^{ふくし}熟^{ふくし}さ^{ふくし}ない^{ふくし}言^{ふくし}葉^{ふくし}で^{ふくし}す^{ふくし}け^{ふくし}れ^{ふくし}ど^{ふくし}も、^{ふくし}福^{ふくし}祉^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}と^{ふくし}社^{ふくし}会^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}と^{ふくし}い^{ふくし}う^{ふくし}
ふ^{ふくし}う^{ふくし}に^{ふくし}切^{ふくし}り^{ふくし}分^{ふくし}け^{ふくし}て^{ふくし}お^{ふくし}り^{ふくし}ま^{ふくし}す^{ふくし}け^{ふくし}れ^{ふくし}ど^{ふくし}も、^{ふくし}福^{ふくし}祉^{ふくし}サ^{ふくし}ー^{ふくし}ビ^{ふくし}ス^{ふくし}は^{ふくし}法^{ふくし}律^{ふくし}上^{ふくし}の^{ふくし}行^{ふくし}政^{ふくし}義^{ふくし}務^{ふくし}だ^{ふくし}と^{ふくし}す^{ふくし}れ

ば、^{しゃかい}社会サービスというの、あるいは^{ごうりてきはいりょ}合理的配慮であり、あるいは^{かんきょうせいび}環境整備という形でこれからは^{かたち}提供されていくのではないかなと思います。

もう少し^{すこ}コミュニケーション支援^{しえん}のところに^{げんてい}限定して^{かんが}考えますと、従来の^{ふくし}福祉サービスの世界では、^{せかい}個人に対して^{こじん}情報保障^{たい}していく、^{じょうほうほしょう}コミュニケーション支援^{しえん}をしていくということが^{ひじょう}非常に^{おお}大きなテーマだったわけですが、^{しょうがいしゃさべつかいしょうほう}障害者差別解消法になってくると、^{こじん}個人に対する^{たい}支援も、^{ふくし}福祉サービスを^こ超えた^{ごうりてきはいりょ}合理的配慮という形で^{かたち}個人に対して^{こじん}コミュニケーション支援^{しえん}をしていく。

一方、^{いっぽう}きょうのここの場も^ばそうですが、いろいろな人^{ひと}が集まっている^{あつ}場というの、コミュニケーションが^ゆ行き交っているわけですが、^かこういう^ば場に対して^{たい}もコミュニケーション支援^{しえん}というのが^{ひつよう}必要になってくる。これは、従来の^{じゅうらい}総合支援法^{そうごうしえんほう}の中では^{なか}非常に^{ひじょう}不明確、^{ふめいかく}個人に対する^{こじん}支援^{たい}ということが^{しえん}非常に^{ひじょう}強く^{つよ}出ていますので、^で場に対する^ばコミュニケーション支援^{しえん}の^{かんてん}観点は^{うす}かなり薄かったと^{おも}思いますけれども、この問題^{もんだい}は^{しょうがいしゃさべつかいしょうほう}障害者差別解消法では^{だい}第5条で^{じょう}「環境を整備する」ということが^うはっきり^だ打ち出されたので、^ばこういう^{たい}場に対する^{じょうほうほしょう}情報保障、^{しえん}コミュニケーション支援^{かんきょうせいび}は、^{めいかく}環境整備として^{かたち}明確な形で^{サポート}、^{フォロー}していく^{みちすじ}道筋がついたのではないかなと思います。

^{けつろんぶぶん}結論部分に移りますけれども、^{わたし}私たちの^{しょうがいしゃ}障害者を取り巻く^と不平等・差別^まを^{ふびょうどう}解消していく、^{さべつ}なくすためには、^{うつ}まずは1つ、^{わたい}従来の^{しょうがいしゃ}福祉サービスの^{きんし}充実^{かいしょう}整備、この問題^{もんだい}は^か欠かせないと思います。

一方、^{いっぽう}全ての^{すべ}障害者に対する^{しょうがいしゃ}差別的な^{たい}取り扱い^{さべつてき}というのは、これは^{あつか}絶対的^{ぜったいてき}に^{きんし}禁止なんです。事業者、^{じぎょうしゃ}行政機関等^{ぎょうせいきかんと}と書いていますけれども、^かそれ以外にも^{いがい}市民社会^{しみんしゃかい}においても、^{しょうがいしゃ}障害者に対する^{たい}差別^{さべつ}というのは^{ゆる}許されないんだということは、^おはっきり^{ひつよう}押さえておく^{おも}必要があると思います。

それ以外に^{いがい}差別解消法^{さべつかいしょうほう}が^も持ち出しています^だ合理的配慮^{ごうりてきはいりょ}、それから^{かんきょうせいび}環境整備、^ここういう^くものが^あ組み合わさって^{しょうがいしゃ}障害者の^{さべつかいしょう}差別解消、^{ふびょうどうたいぐう}不平等待遇^{ぜせい}の^{すす}是正^{めいじ}というのは進められていくというふう^{めいじ}に明示しています。

だけど、^{はいご}この背後で^{ささ}支えるものは何か^{なに}かというと、^{ごうりてきはいりょ}合理的配慮の^{すいじゅん}水準^きを決めるのも、^{さべつ}どういうものが^き差別か^{しゃかいぜんたい}ということを決めるのも、^{しょうがい}やはり社会全体の^き障害、^{さべつ}もしくは^{たい}差別に対する^{いしき}意識の^きレベルが^きどういうところにあるのか^きということを決められる^{ふぶん}部分が^{ひじょう}非常に^{おも}多い^{おも}と思います。

しょうがいしゃけんりじょうやく だい じょう いっぱんげんそく つづ そうそく ひじょう だいじ きてい
障害者権利条約は第8条、一般原則に続く総則の非常に大事な規定として、
しゃかい しょうがい たい りかい いしき こうじょう さべつ たい いしき こうじょう めいかく
社会における障害に対する理解、意識の向上、差別に対する意識の向上を明確
かに書いています。この意識の向上なくしては合理的配慮の水準も上がってこ
ないといふことがありますので、はいご もんだい かんが
背後ではこの問題をいろいろなところで考えてい
く必要があると思います。

それで、わたし しょうがいしゃ
私たちが障害者のイメージするインクルーシブな社会というのは、1
つは、さき くる かえ
先ほどの繰り返しになりますけれども、このピラミッドの図の一番上の
ふくし サービス、これのじゅうじつ かなら
福祉サービス、これは必ずやっついていかなければいけない。
それと、たいきょくてき ふぶん わたし にちじょうせいかつ こじんせいかつ
それと、対極的な部分になりますけれども、私たちの日常生活、個人生活、
こうゆうかんけい
交友関係では、そういう 難しい言い方ではなくて、きくば はいりょ
気配りとか配慮とかサポート、
わたし にちじょうせいかつ きばん ささ
こういうものが私たちの日常生活の基盤を支えているのではないかと。

それで、じつ こうりてきはいいよ かんきょうせいび さべつ かいしょうほう も だ かんが
実は合理的配慮とか環境整備という差別解消法が持ち出してきた考
え方は、このふくし サービス わたし にちじょうせいかつ きくば はいりょ あいだ
この福祉サービスと私たち日常生活の気配り、配慮の間にあって機能
するものではないかと。しゃかい
社会のそれぞれのサービスと配慮の役割、位置というの
をそうごうてき とら わたし
を総合的に捉えて、私たちはインクルーシブな社会の実現に、それぞれ努力して
いくひつよう があるのではないかなと思います。以上、わたし いけん
私からの意見です。

かわうちぶかいちょう しんだにりじちょう
○川内部長 新谷理事長、ありがとうございました。

ひ つづ エヌピーオーほうじん たかやまだいひょう ねが おも
引き続いて、NPO法人えじそんくらの高山代表にお願いしたいと思います。

たかやまさま エヌピーオーほうじん だひょう こうざん もう
○高山様 NPO法人えじそんくらぶ代表の高山と申します。どうぞよろしくお
ねが
願いいたします。わたししん はったつしょうがい なか エーディーエッチディー ちゅういけっかんだとうせいしょうがい
私自身、発達障害の中のA D H D、注意欠陥多動性障害を
も とうじしゃ
持っている当事者でございます。

おとな エーディーエッチディー ていしゅつしりょう
こちらに「大人のA D H Dストーリー」というゲストスピーカー提出資料②
というところで、えじそんくらのホームページでダウンロードできるものを
ていしゅつ
提出させていただきました。

エーディーエッチディー はったつしょうがい じへいしょう がくしゅうしょうがい
A D H D のほかに、発達障害は自閉症スペクトラム、そして学習障害な
どがあります。詳しいところの分類と内容に関しては、さんこうざりょう なか
参考資料の中の45ページ
と46ページ、47ページのところに詳しく書いていただいています。

いま はったつしょうがい しょうがい くぶん はい おお ばあい とうじしゃ どりよく
今まで、発達障害は障害の区分に入っていなく、多くの場合、当事者の努力
が足りない、もしくは親のしつけが悪いといふことでたいへんくろう
大変苦労をしていました。
おうべい くら しえん ねん
欧米に比べて、支援のところが30年ぐらいおくらしているといふことは、ずっと

い
言われてきたところです。

この「大人のA D H Dストーリー」の13ページのところに、皆さんもご存じ
のW H OのI C F（国際生活機能分類）の障害のモデルが書かれています。

身体機能、身体構造のところでは、発達障害の人たちは一見軽い障害のよう
に思われるわけですが、環境因子のところで認知度が低いということがあ
り、専門家さえ、例えば小児科医とかドクターの中でも発達障害の特徴をよ
くご存じのない方がいらっしゃり、ドクターがそうですから、医療従事者、
看護師さんとか薬剤師さんとかいろいろありますけれども、まず保健師さんがな
かなかご存じないということがあったりします。

このW H OのI C Fのモデルの環境因子の中に「専門家の態度」という
項目が入っているわけで、専門家の態度で、「あなた、お母さんのしつけが悪い
からこのような状態になっていますよ」みたいに言われてお母様のほうが鬱にな
るとか、そういう状況があったりするわけです。

それで、健康状態というのは身体機能、身体構造だけで決まるということでは
なく、活動に制限、参加に制約がある、そういうところをトータルで見るとい
うことがあと思っています。

いろいろな点で、一般の人たちと同じことができないというところで、不登校
になったり、そこから鬱になったり、ほかの障害と全く同じだと思いますが、
差別ということではじめ、これが本当に一番の問題ではないかなというふうに思
います。

何か基本的な障害が一時的にあったとしても、活動に制限、参加に制約が起
るということで二次的に鬱病になってしまったり、そういうことが本当に問題に
なってくるところであるというふうに思います。

この活動に制限、参加に制約のところでは、情報をきちんと受けられるかどう
かということは大変重要なポイントになってくるとおもいます。

そして、今回「Working Design Book」ということで、追加で配布資料を
皆様に提供させていただいたんですけれども、本当に発達障害はわかりにくく、
自閉症、学習障害、そしてA D H Dなどは、なかなかカミングアウトをする
ということも、知的障害がない場合は少ない場合もあります。でも、非常にいろ
いろなことで困っていますので、それをわかりやすくつくったものがありますの

で、こちらをご説明^{せつめい}させていただきたいと思^{おも}います。

合併^{がっぺい}があって、1つだけの障^{しょう}害^{がい}を持^もっているということもないので、新^{あら}たに別^{べつ}のタイプで分類^{ぶんるい}していますが、こんなことはありませんかということなのですが、タイプA^{エー}です。耳^{みみ}は悪^{わる}くないのですが、集^{しゅう}中^{ちゅう}し過ぎて、1つのことに集^{しゅう}中^{ちゅう}するということで話^{はな}しかけられたことに気^きがつかないということがあったりします。あとは周^{まわ}りがうるさいと人^{ひと}の話^{はなし}に集^{しゅう}中^{ちゅう}できないということがあったりするとい^うことなんです。それで聞^きこえないという状^{じょう}態^{たい}になる場^ば合^{あい}があります。

あとタイプB^{ビー}のことは、いろいろやることがあ^{わす}って忘^{わす}れてしまう。特^{とく}に口頭^{こうとう}で言^いわれたことは忘^{わす}れてしまうとい^うことがあ^{わす}りますので、視^{しか}覚^{かく}的^{てき}に書^かいていた^{わす}くとい^わいわけな^んですけれ^{ども}、う^{わす}っかり忘^{わす}れてしまうとい^う特^{とく}徴^{ちよう}を持^もっている方^{かた}がいます。

あとタイプC^{シー}のところは、話^{はなし}を聞^きいても相^あ手^{いて}の言^いいた^いいことが、相^あ手^{いて}の意^い図^とがわ^わからない。これ^{ちてきしょうがい}が知^ち的^{てき}障^{しょう}害^{がい}がないのにもか^かかわ^わらず、そ^ばうい^いう場^ば合^{あい}があるわけ^{です}。言^{こと}葉^ばを言^{こと}葉^ばどお^うりに受^うけ取^とるとい^う、これ^{しょうがい}が障^{しょう}害^{がい}の特^{とく}徴^{ちよう}にな^なりますので、暗^{あん}黙^{もく}のル^るールがわ^わからないとか、書^かいてい^いないル^るールがわ^わからない、そ^{ほん}して本^{ほん}音^ねと建^たて前^{まえ}の^おとこ^ろでギャ^あップが大^いきいと、相^あ手^{いて}の意^い図^とがわ^わからないとい^うよう^なことがあ^あります。

これそれぞれお願^{ねが}いしたいことを書^かいてあ^ありますが、4ペ^ぺー^じジ、6ペ^ぺー^じジ、8ペ^ぺー^じジとい^いうとこ^ころに詳^{くわ}しく書^かいてあ^あります。

4ペ^ぺー^じジの^{しゅう}とこ^ころ、集^{しゅう}中^{ちゅう}し過ぎて話^{はなし}が聞^きき取^とれな^ない、雑^{ざつ}音^{おん}が気^きにな^なって集^{しゅう}中^{ちゅう}できないとい^いうこと^で、5ペ^ぺー^じジの^{たい}とこ^ころでこ^{たい}のよ^ううな対^{たい}応^{おう}とい^いうことが書^かいてあ^あるわけ^{です}。

過^か集^{しゅう}中^{ちゅう}で聞^きこえないことがあ^あるとい^いうこと^などは、本^{ほん}当^{とう}に特^{とく}徴^{ちよう}としてご理^り解^{かい}いた^いだか^ないと、耳^{みみ}のほう^きでの聞^きこえないとい^いうこと^ではな^なく、集^{しゅう}中^{ちゅう}し過ぎてしま^{しま}って聞^きこえないとい^いうことがあ^あるとい^いうこと^なので、そ^きの切^きりか^かえの^ととこ^ころが^{たい}大^{だい}切^{せつ}であるとい^いうこと^をご理^り解^{かい}いた^いだけるとあ^ありが^おた^いいなと思^{おも}います。

タイプB^{ビー}ですけれ^{ども}、7ペ^ぺー^じジの^しとこ^ころ、「や^しるこ^{かく}とリ^かス^かト」など^で視^し覚^{かく}化^かの情^{じょう}報^{ほう}が大^{たい}変^{へん}必^{ひつ}要^{よう}にな^なって^おくと思^{おも}います。

あ^おとはや^{ゆう}るこ^{せん}が^{じゅん}多いと^い優先^い順^い位^いがわ^わか^わら^らない。こ^つうい^いうこ^{じょう}とを^{ほう}追^つ加^かで情^{じょう}報^{ほう}と^て提^{てい}供^{きよう}して^おいた^いだ^いけ^いばと思^{おも}います。

あとは時間の概念がわからないということがあり、時間のことなども情報提供の一つとして、「あと何分ですよ」みたいな形でリマインドをお願いしたいというふうに思います。

あとタイプCで、言っていることがわからないということですが、ここが知的障害の方と大きく違うところは、意外とテストの点などではよかったりするんですが、一般のコミュニケーションのところがわからないということがあったりします。

そこで、省略された指示がわからない。当然だと思われることは省略されやすいので、「早くやってください」とかは何を早くするのかわからないというような、省略しないで指示を出していただくというのをお願いしたいということがあります。

あとは「こんなところでそんなことしないでください」というような「こそあど言葉」がわからないということがあります。

常識というのは人によって違うということがあると思いますが、知的障害がなくとも、コミュニケーションのところで具体的に指示を出していただかないとわからないところがあるので、サポートをお願いしたいと思います。あと……

○川内部会長 高山さん、すみません。ちょっと時間が厳しいので、この「Working Design Book」というのを見ていただくことでA D H Dの、特に今、コミュニケーションとおっしゃっていましたが、社会で暮らしていく上で誤解を招きやすい点というのをまとめてくださったわけですね。

○高山様 そうですね。ここで説明は終わりです、ありがとうございました。

○川内部会長 それでよろしいでしょうか。

○高山様 はい、結構です。

○川内部会長 すみません、せっかくの機会に時間をはしょってしまうような形で、おわびします。

○高山様 いえ、大丈夫です。この9ページのところで終わりですから、大丈夫です。ありがとうございました。

○川内部会長 では引き続き、資料2について事務局から、ご説明をお願いします。

○下川課長 それでは、資料2についてご説明をさせていただきます。

ここでは、前回からの引き続きで「情報保障の推進について」ご議論をいただ

きたいとおもっています。ぜんかい ぎろん ふ るんてん せいり
きたいとおもっています。前回の議論を踏まえ、論点を4つに整理してございます。

1つ目、じぎょうしゃ じょうほうほしょう とりくみ ぜんかい
この部分、具体的なご意見はありませんでしたので、本日 改めてご意見をいただければというふうに思っております。

つぎ じょうほうほしょう しゅだん じょうほうほしょう てんじ
次に、「情報保障の手段について」ということで、情報保障には点字ですと
デ イ シ ャ ほか ほうほう じょうれい なか た よう
かDAISYその他さまざまな方法がありますけれども、条例の中では多様な
ほうほう せいめい さいき せつめい
方法については例示に留めて「障害特性に応じて、障害のある人がわかるよう
に説明する」——先ほどもちょっとお話しができておりましたが「わかるように
説明する」ということが重要」というような規定をすべきではないかというところ。

それから、つぎ じょうほうほしょう ひつようせい さいき で
次に「情報保障の必要性」ということで、これも先ほど出ていまし
たが、ぜんかい ぎろん ふ そうほう ひつよう してん
たが、前回の議論を踏まえた、双方にとって必要だという視点。

そして、さいご げんご しゅわ であらと
最後「言語としての手話について」ということで、改めましてこの取
り組みについて、と やくわり るんてん あ
都の役割とすべきかというようなことを論点で挙げております。

さいき ふたり いいんはつひょう ふ ぎろん ふか
先ほどのお二人からの委員発表も踏まえて、議論を深めていただければという
ふうにおもいます。どうぞよろしくお願いいたします。

かわうちぶかいちょう ありがとうございます。とはいえ、じかん
○川内会長 ありがとうございます。とはいえ、時間がかかなりオーバーしてお
りまして、まずさいしょ るんてん じぎょうしゃ じょうほうほしょう
最初、4つありますけれども、「事業者による情報保障
とりくみ じぎょうしゃ きたい やくわり せきむ きてい
の取組について」ということで、事業者に期待される役割・責務を規定すべきで
あろうかというようなことが書いてありますけれども、事業者の取り組みで、こ
ちらにとうきょうしょうこうかいぎしょ すぎさきいいん とうきょうけいえいしゃきょうかい やまはないいん
東京商工会議所の杉崎委員と、それから東京経営者協会の山鼻委員がい
らっしゃっていますので、ほんとう てみじか ねが
本当に手短でお願いしたいんですが、ちょっとご意見
があればいっていただきたいと思います。

すぎさきいいん とうきょうしょうこうかいぎしょ すぎさき もう
○杉崎委員 東京商工会議所の杉崎と申します。

じょうほうほしょう じぎょうしゃ たちば かん
情報保障についてなんですが、事業者サイドの立場で感じることにして、
しりょう 1の1ページめ ぜんかい ぎろん おも
資料1の1ページ目のところに、これは前回の議論であったかと思いますが、
しりょう 1の1ページめ した みせとう はいりょ ひつよう
資料1の1ページ目の下のところに「お店等における配慮が必要になるだろう。
じぎょうしゃ ひと ただんかい ぶんるい ひつよう きさい
事業者をひとくくりではなく、多段階で分類していく必要がある」という記載がご
ざいます。

じぎょうしゃ き ぼ ぎょうたい
事業者といいましても、いろいろな規模ですとか業態がございますので、こ
ういった事業者の実情、特に じぎょうしゃ じつじょう とく ちゅうしょうきぎょう ひじょう き ぼ ちい
ういった事業者の実情、特に中小企業ですとか非常に規模が小さい、これは

「小規模事業者」という呼び方をしているんですが、中 小 企業、小規模事業者の実情や実態を考慮していくことが必要ではないかと思っております。以上です。

○川内部会長 ありがとうございます。つづいて、山鼻委員。

○山鼻委員 東京経営者協会の山鼻でございます。

杉崎さんとほぼ同じなんですけれども、事業者と言っても、一概にどのようなサービスを提供しているか、これによっても情報保障のところは違うのではないかなというふうに思っております。

資料1の2ページに例示されているように、最後の3ポツです。「同様に、事業者は、手話、筆談、点字、触覚を使った意思疎通云々」とございますけれども、先ほども先生から手話にもいろいろな種類があるというのを初めて知ったというようなこともございますので、まだ事業者のほうでは、なかなかここまで情報に関するリテラシーのほうもまだ少ないということもございます。事業者といたしましては、差別禁止というのはもちろん当然ですし、合理的配慮、そちらのほうも皆さん努力はしているんですけれども、事業者の業態、また規模、どのような仕事をしているか、また財力によっても提供できるもののがかなり違うということ。また、障害者雇用促進法のところでも合理的配慮というものはやられていますけれども、こちらのほうでも従業員とよく話し合っどどのようなものを提供できるかというようなことが書いてあります。非常にそのところで事業者は求められれば応えようとするところは、姿勢としてはかなりあるかと存じますので、一概に「責務である」というふうにやってしまうと、かなり事業者としては頑張っ、今、発達障害のほうでもいろいろなタイプがあるというふうなお話がありました。これでいいと思ってやっても、特に事業者ということは初対面の方への提供ということを考えますと、これでよかれと思ってやったことがあだになるということも考えられると思しますので、こちらのほうは、よくみなさまで議論いただければと存じます。以上です。

○川内部会長 ありがとうございます。同じことをやっても、事業者の規模によっては負担が大きくなり過ぎることもあるというようなことだろうと思います。

なお、事業者というのは、目的の営利、非営利、あるいは個人、法人というのを問わず、同種の行為、同じ行為を反復、継続する意思を持って行う者を言っているんです。つまり、個人事業者とか、1人でやっている人も含みますが、それ

から非^ひ営^{えい}利^りの社^{しゃ}会^{かい}福^ふ祉^し法^{ほう}人^{じん}とかN^{エヌ}P^{ピー}O^{オー}とかというようなところも対^{たい}象^{しょう}になってく
るといので、あらゆると言^いってもし^おい^なか^なも^なし^なれ^なま^なせんが、同^{どう}じ^じよ^よう^うな^な行^{こう}為^いを^をず
っとや^じっ^ぎて^{よう}い^{しや}る^{しや}と^しこ^ころ^ろは^は事^じ業^{ぎやう}者^{しや}と^しい^いふ^ふう^うに^に法^{ほう}律^{りつ}で^で考^{かん}え^えら^られ^れて^てい^いる^ると^とい^いう^うこ^こと^と
になります。

とい^いう^うこ^こと^とで、今^{いま}のお^お話^{はなし}だ^だと、受^うけ^い入^いれ^れる^る側^{がわ}の規^き模^ぼとい^いう^うの^のも^も考^{かん}え^えた^た文^{もん}言^{ごん}に
し^して^てほ^ほしい^いとい^いう^うよ^よう^うな^なこ^こと^とだ^だら^らう^うと^とい^いい^いま^ます。こ^ここ^こに^に4^よつ^つの^の論^{ろん}点^{てん}が^が出^でて^てい^いま^ます。
ほ^ほか^かに^に何^{なに}か^かつ^くけ^え加^かえ^えたい^いこ^こと^とと^とか^かご^い意^{けん}見^{けん}が^があ^あれ^れば^ば、拳^{きょ}手^{しゅ}を。

ま^さず^さ佐^さ々^さ木^きさ^さん、そ^その^あ後^ごに^もり^りや^やま^ま森^{もり}山^{やま}さ^さん。

○佐^さ々^さ木^き委^い員^{いん} 東^{とう}京^{きやう}都^と盲^{もう}人^{じん}福^ふ祉^し協^{きやう}会^{かい}の^の佐^さ々^さ木^きです。

私^{わたし}た^たち^ちは、前^{ぜん}回^{かい}の^のと^とき^きに^に情^{じやう}報^{ほう}保^ほ障^{しやう}とい^いう^うこ^こと^とで^で点^{てん}字^じ、あ^ある^るい^いは^は音^{おん}声^{せい}化^か、あ^ある^る
い^いは^は事^じ前^{ぜん}に^に資^し料^{りやう}と^とか^か、そ^そう^うい^いう^うこ^こと^とを^を申^{もう}し^し上^あげ^げて、こ^ここ^こで^で提^{てい}案^{あん}さ^させ^せて^てい^いた^ただ^だい^いて、
今^{いま}事^じ業^{ぎやう}者^{しや}さ^さん^んの^のほ^ほう^うか^から^らの^のお^お話^{はなし}も^も伺^うか^かつ^つた^たん^んで^です^すけ^けれ^れど^ども、そ^それ^れで、前^{ぜん}回^{かい}私^{わたし}の^のほ^ほ
う^うか^から^らも、そ^そこ^こま^まで^で言^いっ^って^てい^いな^なかつ^つた^たん^んで^です^すけ^けれ^れど^ども、こ^こう^うい^いう^う 情^{じやう}報^{ほう}保^ほ障^{しやう}と^とか^か
合^{ごう}理^り的^{てき}配^{はい}慮^{りょ}に^につ^つい^いて、事^じ業^{ぎやう}者^{しや}さ^さん^んが^が合^{ごう}理^り的^{てき}配^{はい}慮^{りょ}す^する^るに^には^はど^どう^うし^した^たら^らい^いの^のか^かとい^い
う^うこ^こと^とを^を相^{そう}談^{だん}す^する^るよ^よう^うな^な窓^{まど}口^{ぐち}とい^いう^うの^のも、ぜ^ひ必^{ひつ}要^{よう}じ^じゃ^ゃな^ない^いか^かと^とい^いい^いま^ました。

予^よ定^{てい}で^で伺^うか^かつ^つて^てい^いる^るの^のは、障^{しょう}害^{がい}者^{しや}が^が合^{ごう}理^り的^{てき}配^{はい}慮^{りょ}が^がな^なさ^され^れな^なかつ^つた^たと^とき^きに^につ^つい^いて、
ど^どこ^こに^に話^{はなし}を^を持^もつ^つて^てい^いつ^つた^たら^らい^いか^かと^とか、そ^そう^うい^いう^う窓^{まど}口^{ぐち}に^につ^つい^いて^ての^の討^{とう}議^ぎは^は予^よ定^{てい}さ^され^れ
て^てお^おる^る、次^じ回^{かい}以^い降^{かう}あ^ある^ると^とい^いい^いま^ます^すが、東^{とう}京^{きやう}都^と条^{てう}例^{れい}の^の中^{なか}に^に事^じ業^{ぎやう}者^{しや}さ^さん^んが^がこ^こう^うい^いう^う
場^ば合^{あい}に^には^はど^どう^うい^いう^う合^{ごう}理^り的^{てき}配^{はい}慮^{りょ}が^が可^か能^{のう}だ^だら^らう^うか^かとい^いう^うこ^こと^とを^を相^{そう}談^{だん}す^する^るよ^よう^うな^な窓^{まど}口^{ぐち}と
い^いう^うか、そ^そう^うい^いう^うの^のを^を設^{もう}け^ける^る必^{ひつ}要^{よう}が^があ^ある^るん^んじ^じゃ^ゃな^ない^いか^かと^と特^{とく}に^に感^{かん}じ^じま^ました。

先^{さき}ほ^ほど^どお^お話^{はなし}に^に出^でま^ました^{した}バ^{けん}ニ^たラ^{ぶん}エ^じア^{ぜん}の^の件^{けん}で^でも、多^た分^{ぶん}事^じ前^{ぜん}に^にど^どこ^こか^かそ^そう^うい^いう^う相^{そう}談^{だん}す^す
る^る窓^{まど}口^{ぐち}が^があ^あれ^れば、あ^あん^んな^な見^み苦^{くる}しい^いこ^こと^とが^がな^なか^かつ^つた^たん^んじ^じゃ^ゃな^ない^いか^かな^なと。見^み苦^{くる}しい^いと
い^いう^うの^のは^は航^{こう}空^{くう}会^{かい}社^{しゃ}の^のほ^ほう^うの^の見^み苦^{くる}し^しさ^さで、別^{べつ}に^に動^{うご}き^きの^のこ^こと^とで^では^はあ^あり^りま^ません^{せん}が。

そ^そう^うい^いう^うこ^こと^とが^がな^なか^かつ^つた^たと^とい^いい^いま^ます^すの^ので、ぜ^ひ必^{ひつ}要^{よう}事^じ業^{ぎやう}者^{しや}さ^さん、あ^ある^るい^いは^は合^{ごう}理^り的^{てき}
配^{はい}慮^{りょ}を^をす^する^る側^{がわ}の^の相^{そう}談^{だん}窓^{まど}口^{ぐち}が^が結^{けつ}構^{こう}必^{ひつ}要^{よう}だ^だな^なとい^いう^うの^のを、私^{わたし}も^も自^じ分^{ぶん}の^のほ^ほう^うに、合^{ごう}理^り的^{てき}
配^{はい}慮^{りょ}を^をお^お願^ねい^いす^す立^{たち}場^ばか^から^らい^いう^うと、事^じ前^{ぜん}に^に言^いっ^って^ても^もら^らえ^えば、い^いろ^ろい^いろ^ろな^なこ^こと^とが^が言^い
え^える^るし、む^むし^しろ^ろ合^{ごう}理^り的^{てき}に^に話^{はなし}が^がで^でき^きる^ると^とい^いい^いま^ます。

い^いろ^ろい^いろ^ろな^な合^{ごう}理^り的^{てき}配^{はい}慮^{りょ}が^がな^ない^いとい^いう^うこ^こと^とで^で窓^{まど}口^{ぐち}折^{せつ}衝^{しょう}か^から^ら建^{けん}設^{せつ}的^{てき}な^な対^{たい}話^わとい^いう^うも^も
の^ので^で話^{はなし}が^が大^{おお}き^きく^くな^なつ^つて^てか^から^らで^です^すと、そ^そこ^こで^で初^{はじ}め^めて^て建^{けん}設^{せつ}的^{てき}な^な対^{たい}話^わの^の中^{なか}で^でこ^こう^うい^いう^うこ^こと^と
を^をや^やっ^って^てく^くだ^ださ^さい、あ^ある^るい^いは^はこ^こう^うい^いう^うこ^こと^とが^がで^でき^きれ^れば^ばい^いい^いとい^いう^うよ^よう^うな^なこ^こと^とに^にな^な

るよりも、事前に察知していただいて、合理的配慮という東京都条例が制定されれば、その辺のところに事業者さんが相談できる窓口がぜひ必要だなということを感じいたしました。

○川内部会長 ありがとうございます。事業者へのサポートもあるんじゃないかというお話でした。では、森山さん。

○森山委員 育成会の森山です。

知的障害の人は本当に個性が高く、どのような合理的配慮が必要かというのもさまざまだと思うんですけども、今回情報ということで、情報が多過ぎても困るんです。知的障害の人たちは混乱します。自分の思いや考え、またはSOSを表出するというのは、とても難しいことだと思います。一方で、それをまたわかるように、何か支援をわかるように説明するというのも意外に難しいんです。「障害のある人がわかるように説明することが重要」と書いてあるんですけども、これをわかるように説明するのも意外に難しい。そして、また障害者のほうも積極的にこのことを要求する。こういう支援をしてくださいとか、こういう説明をしてくださいということを積極的に要求できる人も少ないわけです。こういったことが障害特性になるわけですが、情報提供をおくらせる1つの理由ではないかなというふうに思います。

手話とか、そういった方法が今まで議論されてきましたが、前回、コミュニケーションボードの話題も1つ出ておりました。わかりやすい文章やルビを振っていただいたり、または話し言葉による情報提供のほかに、さらにピクトグラム、絵文字ですね。こういったものを活用していただければなというふうに、1つの情報保障の提供する手段になるのかな。これはISOの国際標準化のものとか、またJIS規格のものとかあって、案内というところもインフォメーションの「i」のマークがあったり、「？」のマークがついていたり、これもちょっと多様化しているわけですけども、こういうことを踏まえて、1つ、知的障害、または発達の方等も簡単にわかる方法、思いを伝える方法、伝えられる方法というのを考え、取り入れていただければなと思いました。以上です。

○川内部会長 ありがとうございます。ほかにありませんでしょうか。

では、越智さん。

○越智委員 東聴連の越智です。

情報保障だけに限らずに、さまざまな支援、法的配慮、合理的配慮をすべきだと思います。細かな配慮になってきて、盛り込んでいくと混乱する場合もあるかと思ひます。かといひて曖昧な表現をすると、結局、支援する立場ではどうしでいいかわからないと思ひうんです。

例えば、大きな目的を示す上で具体例を別に出していくという方法も必要なのではないかと思ひられます。

例えば、文字による情報保障の際にどうするのか、知的障害者の場合にはどう配慮するのか、精神障害者にはどう配慮するのか。聴覚障害者にとっても文字が苦手な人もおひります。わかりやすく変えて示す必要があると思ひます。中途失聴・難聴者の場合には変えてほしくないという、そのままあらわしてほしいということもあひります。さまざまな配慮が必要だと思ひます。そのあたりを具体的に説明していく必要があろうかと思ひます。

○川内部会長 ありがとうございます。提供側も受け取る側も非常に多様であるということが、何らかの表現が文言の中に入るといひことだろうと思ひます。

すみません、ちょっと急いで申しわけないんですけども、次の「相談・紛争解決の仕組み」といひ、とても大きな問題が控えていますので、そちらに進みたいと思ひます。事務局から説明をお願いします。

○下川課長 それでは、資料3のご説明をさせていただきたいと思ひます。

本日と次回の2回に分けて、**「相談・紛争解決の仕組み」**について検討させていただきます。すみません、**「資料3」**と申し上げました。その前に、参考資料のほうの説明を先にさせていただこうと思ひます。

まず参考資料のAをごらんください。

こちらについては、これまでの部会やヒアリングにおいて、相談・紛争解決の仕組みに関して出された意見をまとめたものです。個別の説明はちょっと割愛させていただきますが、**「相談体制」**のところについては資料の1ページから2ページにかけて、それからその後に**「紛争解決の仕組みについて」**、そして最後4ページの後半には**「不当な差別的取扱い」**と**「合理的配慮」**について意見をまとめてありますので、きょうの議論の参考にしていただきたいと思ひます。

次に、参考資料のIをごらんください。

こちらは、他県の条例において**「相談・紛争解決の規定」**がどうなっているかをま

とめたものです。

1の「相談体制に関する規定」ですけれども、多くの条例が具体的に規定をしています。例えば、埼玉県では広域専門相談員というような規定をしているのを1ページの下段に書いています。

それから3ページ、(4)のところでは、専門の相談機関がどのような対象範囲を相談を受けているかというようなところもまとめています。

「不当な差別的取扱い」と「合理的配慮の不提供」というところを相談対象にしているところが多いんですけれども、(5)のところに書いてあります「具体例」、大阪府ですけれども、この例だと、事業者による差別等について障害者等と事業者の双方から相談を受けるというようなことを規定しております、4ページのほうでは相談員の職務についても具体的に規定をしています。

次に、紛争解決についてですが4ページ、ルビ振り版だと5ページになります、が、ごらんいただきたいと思います。

他県条例では第三者機関の規定を設けているところが多いということになっています。例えば、具体例は愛知県ですけれども、障害者等が知事に対して解決のために必要な助言やあっせんを求めることができるというようなことで、そのための機関を設けているというような状況です。

次に、5ページになります。ルビ振り版だと6ページですが、紛争解決の手段としてどのようなものを規定しているかというところでは、「助言・あっせん・勧告」に加えて、それに従わない場合の「公表」というような規定を設けているところもあります。

6ページ、ルビ振り版では7ページ、②ですけれども、大阪府の事例をちょっとご紹介すると、広域支援相談員が対応しても解決が見込めない場合にあっせんの求めができるというふうにして、その内容、勧告から公表まで結構細かく規定がされています。

なお、公表ということに関しては、この部会においても懲罰的なものではなく、むしろ、紛争が解決した事例を公表して合理的配慮についての情報を共有することが大切だというようなご意見もいただいていますので、このあたりについても検討をお願いできればというふうに思います。

それから8ページ、ルビ振り版の9ページでは、紛争解決の第三者機関でどう

いったところを^{たいしやう}対象にするかというようなところもまとめています。

例えば、何人^たによる「^{ふとう}不当な^{さべつてきとりあつか}差別的取扱い」ですとか、「^{ごうりてきはいりよ}合理的配慮の^{ふていきやう}不提供」を^{たいしやう}対象としている^{じやうれい}条例も多いんですけれども、^{おお}事業者によるものだけに^{げんてい}限定しているところや「^{ふとう}不当な^{さべつてきとりあつか}差別的取扱い」に^{げんてい}限定をしているという^{じやうれい}条例もあります。

それから、次に^{つぎ}9ページ、ルビ振り版の10ページには「^{ふとう}不当な^{さべつてきとりあつか}差別的取扱い」と「^{ごうりてきはいりよ}合理的配慮の^{ていきやう}提供」の^{とうじしや}当事者というんですか、^{しゆたい}主体をどこまで、^{せい}どういうふう^{せい}に制定するかというところでまとめていますが、これで（2）の^{ひやう}表^みを見ていただくと、例えば^た埼玉県については「^{ふとう}不当な^{さべつてきとりあつか}差別的取扱いの^{きんし}禁止」を「^{なんびと}何人も」というふう^{きてい}に規定、①に入っているわけですが、8ページへ^{もと}戻りますが、「^{ふんそうかいけつ}紛争解決の^{たいしやう}対象^{はんい}範囲」というところを見ると、実は^み埼玉県は上から2つ^め目で、^{じぎやうしや}事業者による「^{ふとう}不当な^{さべつてきとりあつか}差別的取扱い」と「^{ごうりてきはいりよ}合理的配慮の^{ふていきやう}不提供」のみを^{たいしやう}対象としています。

同様に^{どうやう}栃木県でもそういった^{とちぎけん}ずれといえますか、^みが見られまして、9ページの（3）の^{ひやう}表^みを見ますと、「^{ごうりてきはいりよ}合理的配慮の^{ていきやう}提供」について「^{けんみん}県民の^{ぎむ}義務」という^{きてい}ふうな規定^{ふんそうかいけつ}がありますけれども、^{じぎやうしや}紛争解決については、^{ふとう}事業者による「^{さべつてきとりあつか}不当な^{たいしやう}差別的取扱い」のみを^{たいしやう}対象としています。

こういったところで^{ふんそうかいけつ}紛争解決の^{しく}仕組みに入っていない^{けんみんとう}県民等の^{ぎむ}義務については、^{いっばんてき}一般的、^{せんげんてき}宣言的な^{ぎむ}義務規定として^{じやうれい}条例で規定^{きてい}をしているというふう^{かいしやく}に解釈^{かいしやく}がで^{おち}きるのかなというふう^{おち}に思います。

改めまして、^{あらた}資料3を^{しりやう}ごらんいただければ^{おも}と思います。

こういった^{じやうきやう}状況も^ふ踏まえまして、^{こんかい}今回、^{そうだん}相談・^{ふんそうかいけつ}紛争解決の^{しく}仕組みについて^{ろんてん}論点を^{せってい}設定^{せってい}させていただいています。

^{ろんてん}論点①は「^{そうだんたいせい}相談体制について」ということで、^{ほう}法は、^{あら}新たな^{きかん}機関は^{せっち}設置せずに、^{きそん}既存の^{そうだん}相談^{きかん}機関の^{かつよう}活用・^{じゅうじつ}充実という^{かんが}考え方^{かた}ですけれども、^{いま}今までの^{ぎろん}議論で^{そうだん}相談^{きかん}機関の^{ひつようせい}必要性^でということが^ふ出ていることを^{ろんてん}踏まえまして、^{ろんてん}論点を3つに^{せいり}整理^{せいり}させていただいております。

1番目は^{ばんめ}ちょっと^{かつあい}割愛^{ばんめ}しますが、2番目、「^{きそん}既存の^{そうだんまどぐち}相談窓口や^く区市町村との^{やくわりふんたん}役割分担^{せんもんそうだん}について」ということで、^{きかん}専門^{きかん}相談^{きかん}機関^{もう}を^{ばあい}設ける^{かくふんや}場合に、^{きそん}各分野の^{きそん}既存の^{そうだんまどぐち}相談窓口や^{みちか}身近な^く区市町村との^{やくわりふんたん}役割分担^{かんが}をどう^{かんが}考えるかということ、それから

3つ目は専門の相談機関の役割ですとか、受け付ける相談の内容や対象者の範囲をどういうふうに考えるのかというようなところで、ご議論をいただければと思います。

それから、次のページですが、論点の②は紛争解決のところでございます。

専門相談機関における対応を経ても、なお解決が望めない場合、困難な場合に、本件において規定すべき紛争解決の仕組みについて、3点に整理をしています。

1つは第三者機関の設置をするべきかどうかというところ、それから2つ目は第三者機関の設置をする場合の機能について対象とする事案の範囲ですとか、対象、紛争解決を図るための第三者機関が持つべき機能、権限をどうするかというようなところです。

そして、「区市町村との役割分担」というところでは、特に既に条例を持っていて、もしくはこれから条例を制定するというところで、紛争解決の仕組みが明確化されている区市町村との役割をどうするか、というようなことが論点になるかと思っています。

3ページをごらんいただきますと、イメージ図のようなものがあります。こちらについては現時点で相談・紛争解決の流れということでイメージをしたものをつくってんでいます。

左側が東京都、右側が区市町村で、それぞれ上から下に事案が流れていくイメージです。

相談者は地元の区市町村、もしくは場合によっては東京都ということで、どちらかに相談をします。

また、相談機関のところで横の矢印が入っていますけれども、区市町村から東京都に困難事例のご相談があったり、東京都から助言などをしたり連携をしながら対応していくというようなイメージです。

その相談機関で対応が難しいものについては、下に流れますけれども、東京都の相談機関で難しいものが、都の第三者機関のほうに流れていくイメージですが、ここでは相談をしている障害者などが、あっせんの求めを行うというようなイメージを想定しています。

その第三者機関が入ることであっせん、勧告というような流れになっていますけれども、公表というところまで行くのかどうかというようなところも、本日も

議論をいただきたいというふうに思っています。

次に、5ページをお開きください。ルビ振り版では6ページです。

論点の③は、「不当な差別的取扱いの禁止」及び「合理的配慮の提供」について、その範囲についてということになります。

論点の下の方表が法律での規定を図示したものですけれども、黒く反転しているところが条例の中での適用範囲をご検討いただきたい部分です。論点のところ記載の文字とも重なりますけれども、事業者による「合理的配慮の提供」を努力義務にするのかどうするのかというところ。それから一般私人の規定については、法律上は特段の明確な規定がありませんけれども、条例上はどういうふうにしていくのかということです。

この部分は法律で「環境の整備」が規定されている部分と同様、一般的な努力義務として規定をするという考え方もあると思いますので、そのあたりも含めましてご議論をいただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○川内 会長 ありがとうございます。

論点が幾つかありますので、まず絞っていききたいと思います。

論点①の「相談体制」、3つ論点があります。「専門相談機関の必要性」、それから「既存の相談機関や区市町村との役割分担」、それから「専門相談機関の機能について」ということがありますが、これについてご意見、ご質問のある方は挙手をお願いします。佐々木さん。

○佐々木 委員 これは質問です。先ほどの下川課長の説明の中で、流れでわからなかったところがあったんで質問です。

都の第三者機関のほうという、その部分がちょっと。第三者機関というのは専門相談機関から離れて、どこか別のところに相談を流すという意味ですか。

ちょっと図がわからないものですから、それを聞きたかったんですけれども。

○川内 会長 第三者とは何かということだと思えます。

○下川 課長 すみません、ちょっと説明を焦って急いでしまったので申しわけありませんでした。

第三者機関というのは、まずは相談窓口を設けるという前提で今お話をしますと、専門の相談機関で相談について調整なり、先方への確認などをします。そこでなかなか理解が得られないと、合理的配慮なり差別の改善が図られないという

ときに、ほかの県の条例では「調整委員会」というような呼び方をしているところが多いようですけれども、相談窓口とは別の第三者機関、別の機関を会議体のようなものを設けて、そこにあっせんの求めなどを相談者のほうから持ち込んでいただいて、そこで改めて第三者の立場で事業者に対するあっせんですとか、助言ですとかしていただいて、それでもだめな場合には、この条例に基づく勧告というような形で、ある意味強制力を持つような取り組みをしていくというような、そのための機関を「第三者機関」というふうに呼んでいます。よろしいでしょうか。

○佐々木委員 そうすると、第三者機関を通すということは、あっせんとかの効力を高めるという効果を考え、第三者機関に流すということですか。

○下川課長 そうです。

○佐々木委員 わかりました。どうもありがとうございます。

○川内部会長 佐々木さんには見えないんですけれども、この図では、「都の相談機関」で「相談機関による調整を経ても、なお解決が図られない場合」に「都の第三者機関」にあっせんを求めるという形になっているので、まさに今佐々木さんがおっしゃったような、あっせんの効力を高めるというような目的で考えられています。

○佐々木委員 わかりました。

○川内部会長 ということで、論点①の最初の丸です。「専門相談機関の必要性」について「設けるべきか」というふうなことが書いてありますが、どうも流れからすると設けるべきであるということだろうと思います。

あとは区市町村との役割分担とか、それから相談機関でどんな相談内容を受けると。1つ出てきたのは、事業者からの相談というようなものも出てきています。それから、当然当事者からの相談というようなものも出てきているというようなことは、今までの議論で出てきています。ほかに何かつけ加えたいこと、あるいは区市町村との役割分担について何かご意見のある方があれば、橋本さん。

○橋本委員 東京都育成会のゆうあい会の橋本です。

私たちの立場から言わせていただくと、私たちは新しい場所とか、初めて会う方になかなか慣れていかない。やっぱり会話ができないの也有ります。それ以前に、人になれないのもいっぱいあって、いきなりそこへ行ってお話しする

なんていうのは到底難しいとおもうんで、市町村にしても、東京都にお邪魔するにしても、その辺のまずは私たちの一番の理解を、こういう人間ということもわかっていただいた上でのそういう支援者をまずはつけていただいて、そして自分たちが何を言いたいのかということ支援者がまずはご理解をいただかないと、ちょっと一歩目が入っていけないかなというのもあると思うので、その辺のことも含めて、そういう準備をまず一歩目からしていただかないと、私たちはちょっと難しいかなと思います。

○川内部会長 ありがとうございます。

それは先ほどの発達障害なんかも同じだろうと思うんですけども、それぞれの方の特性に対して、相談を受ける側がきちんと理解してほしいということだろうと思います。ほかにありませんでしょうか。どうぞ、清水さん。

○清水委員 ありがとうございます。奥多摩町の清水と申します。

こちらにある丸の2番目の「既存の相談機関や区市町村との役割分担について」の中で、先ほど事業者団体の代表の方からもお話がございましたけれども、身近な区市町村という立場ではありますけれども、やはり自治体の規模というものも当然ありますし、なかなかこれは——まあ、相談機関を設けないということではないんですけども、その辺のある程度の人的な資源のところもありますので、その辺のこちら側の配慮というものも必要かなというふうに考える次第でございます。以上です。

○川内部会長 ありがとうございます。では、どうぞ。

○伊藤委員 精神障害者団体、都精民協の伊藤です。

障害の関係で言うと、相談支援機関というのは非常に多くあるのかなというふうに思います。それによって障害のある方、相談をされる方が逆に言うと混乱をしているのではないかなと。この問題はどこへ行って相談していったらいいんだ、どこの場所で相談をしていていいんだか、ということがわからないのではないかなというふうに思っています。

そういう中で障害が多様化している中、程度もいろいろ、さまざまな中で、身近なところで総合的に相談をできる窓口があったらいいな、というふうに一番思います。各区市に総合相談窓口みたいなものを設置、そこにきちんと行けば、何でも相談をできて、その中で対応できない場合は相談員の方がきちんとほかの

ところと相談をし、情報を得、解決に向けるというところで、相談に行った方が総合相談窓口で、ある程度対応してもらえるような窓口が必要ではないかなと。やはり敏速な対応と、たらい回しにしないということが大事なかなというふうに思っています。

1つ、東京では基幹相談支援センターというのが、都内に今20カ所ほどというふうに聞いていますが、そのようなものの総合的な相談窓口が広がって、そこの中での相談が充実していく。そこに行けば、どの障害のことも専門相談員がいて話を聞いてくれて対応してくれるというところがあったほうがいいなというふうに思っております。以上です。

○川内部会長 ありがとうございます。いわゆるワンストップサービスということになるかと思えますけれども、先ほどの清水さんのご意見もありましたけれども、区市町村がそれをやるに当たっての支援ということをおっしゃったと思います。そのようなことが1つ文言の中に表現されると、表現していただきたいというようなご意見だったろうと思います。

ほかにはない……いっぱい挙げられますね。すごく時間が困っているんですけども、まず越智さんお願いします。

○越智委員 越智です。手短かに申し上げます。

私のほうでも区市に支部協会がありまして、区市に何かありますと、次にここで解決ができないときには、私どものところに相談が来るということになっております。区市で相談を受けたとしても解決できない場合、どうしたらいいかというときには、やはり東京都として相談を受け付けるということがあります。地域で解決できないものを受けるという立場として、専門的な組織を構築していく必要があると思います。

それと別に、長期的に考えますと、相談支援の場合の支援した解決の内容の積み重ね、これが必要なのではないかと思います。その積み重ねの内容を公開していくことで、さまざまな問題をさらに解決できる。その前例を見てまた対応していくと、わざわざ相談の必要もないということもあるかもしれません。相談の内容を公開していくということも、改めてつけ加えて検討をお願いしたいと思います。

○川内部会長 ありがとうございます。情報の蓄積だろうと思います。

ふじた
藤田さん。

○藤田様 自立生活センター・日野の藤田です。秋山から預かっている意見を
はつげん
発言させていただきたいと思います。

何度も出ていますけれども、区市町村だけではなくて、都にも総合相談窓口と
しての機能が必要ではないかという意見と、相談の方法にしても、これは事業者
の情報保障の取り組みにも同様に言えるんですけれども、電話のみに限定せずに
最初からファクス、メールなどもその仕組みとして、相談できる仕組みとして
必要ではないかということがあります。

それから、区市町村の役割ですけれども、都に相談が来た場合には区市町村に
相談機関がある場合には適宜適切に紹介をする。その際、相談者をフォローする
などの仕組みが必要かなというところ。それから、本人が望む場合には、市町村
に限らず、都に直接相談することもできるといったような仕組み。

それから、専門機関の機能についてですけれども、相談窓口の役割の中で、受
ける内容の、相談内容の範囲については、限定すべきではないのかなというところ
があります。そして、その職務に当たる人材は、都の通常業務を兼務するには
少し難しいのではないかな、というふうに思っております。なので、独立した
機関の設置ですとか、人員配置がふさわしいのかなというところです。

それから、相談員の研修についてですけれども、あらゆる相談・紛争解決に当
たる人員は、その見識と知識、姿勢を培う研修を受ける必要があるかと思いま
す。福祉の増進に熱意を持って行動できる人材育成が必要です、ということで
意見を預かってきております。以上です。

○川内部長 ありがとうございます。

ちょっと急ぐようですみませんが、次の紛争解決の仕組み……あっ、まだいら
っしゃる。すみません、ではどうぞ。

○山梨委員 すみません、簡単に。精神障害当事者の山梨です。基本的なことに
戻るんですけれども、あっせん、勧告、公表となると、法律的な権限が必要だと
思うんですけれども、この条例で規定しないとできないことなんでしょうか。あ
るいは、ほかで代替できるようなことなんでしょうか。

それと、区市町村で紛争解決手段で「あっせん」と書いてあるんですけれども、
こういう差別解消法の条例、定めていないところも多いと思うんですけれども、

そういうところではほかで何とか代替できているということでしょうか。

○下川課長 すみません、事務局の下川です。

差別解消法のほうでは、ここに当たる権限行使というのを、主務大臣がそれぞれの個別の法に応じた、法分野に応じた主務大臣が権限行使をするという仕組みがありますが、それだけですと具体的な紛争解決になかなかつながりにくいということで、今回、この条例の中でも個別に規定が必要なのではないか、ということとで今議論をしていただいています。

ですので、あっせんですとか勧告ということは、この条例に盛り込まれれば、この条例を根拠として権限行使を行うことができるようになるという理解です。

区市町村のほうでも、まだ都内、数は少ないですけども、条例を既に制定しているところがありますので、そういうところでは、その条例に基づいた権限行使を行うということは当然想定されていると、そういうことです。

○山梨委員 ないところはどうする方向なんでしょうか。

○下川課長 ないところも、相談・紛争解決の仕組みをつくるというのは法律の中で求められていますので、相談に当たって調整をしてというようなことは法律の仕組みの中で可能です。

それから、主務大臣の権限行使のところでは、法律によっては都道府県とか区市町村に権限がおろされているものもありますので、そういうものについては、例えば障害者総合支援法ですと、福祉サービス事業者の運営指導とかというものは都道府県の責務になっています。権限がおろされていますので、そこはそちらの法律によっても、動くことはできるということになっています。ちょっと複雑なんですけれども。

○山梨委員 わかりました。

○川内部会長 ややこしいですが、可能であるということだろうと思います。

次の論点②「紛争解決の仕組み」に進みたいと思うんですけども、まず最初に弁護士の池原さん、関哉さんにちょっとご意見をお伺いしたいと思います。

ちらっと。では、まず関哉さんから。

○関哉委員 関哉のほうからお話しさせていただきます。

既存の条例では、相談体制から始まって、助言、またはあっせんという手続、そしてその後、勧告、あるいは公表という手続が規定されているわけですが、こ

の「第三者機関」と書いてあるところが結局あっせん等を担うことになると思うんですが、この体制に乗ったところで一番避けなければいけないのは、この法律、あるいは作ろうとしている条例が対話を重視して、調整というところをメインでやっていかなきゃいけない、そんな機関になると思うので、あっせん手続に乗ったら、あっせんに至るまで、あるいは助言に至るまで何もできないという体制だけは絶対あってはいけないと思っています。せっかく相談して、調整がある程度進んでいたのに、そこからストップして、また調査が始まって、すごく時間がかかって結論が出る。こういうことは避けなければいけないと思うので、例えばですけれども、相談体制の中で広域相談員、広域専門相談員や広域支援相談員、こういった方が規定された場合は、あっせん手続に入っても、引き続き調整活動ができるようにするとか、あるいはあっせん機関内に少人数の部会みたいなものを設けて、その部会がアウトリーチをしながら並行して調整活動や適宜助言ができる、そういった体制が必要になってくるんじゃないかと。そのほうがこの法律や条例の趣旨に合致するのではないかと思います。

論点の中の「区市町村との役割分担」ということですが、条例がある区市町村、あるいはこれから条例ができる区市町村で、同じく助言、またはあっせんの機能を持たせているところがあったとしても、現状では、あっせんのための要件、手続、効果、いろいろ異なる部分がありますので、並行して区市町村と東京都とで、両方とも規定せざるを得ないんじゃないかというのが私からの意見です。

○池原副部長 副部長の池原ですけれども、今関裁委員が言ったことと大体似た部分だと思うんですが、できれば八王子市の方がいらっしゃいますよね。ちょっと教えていただきたいというか、少し頭を整理したほうがいいかなと思うのは、いわば二段階になっているわけですね。相談、助言という枠組みの部分と、第三者機関に移るという枠組みがあって、例えば、何か私自身よくわかっていないのは、相談員の相談のところで相談、助言という、助言もできるわけですね、調査して助言をする。第三者機関に行くと、また助言というのがもう一回ワンステップ入ってきて、助言、あっせん、勧告、公表というふうになっていくので、何かその2つの枠組みが少しオーバーラップしているのかというところが、少し八王子の例を教えていただきたいなと思っていて、もうちょっと別の、かえって混乱しちゃうかもしれないんですけれども、全く逆転させた考え方からす

ると、むしろ、^{ぎょうせいちょう}行政庁として出すべき^だ結論^{けつろん}を出してしまうと。例えば、^{たと}相談員^{そうだんいん}レベルのところで——^{そうだんいん}相談員という^い位置づけ^ちがいいのかどうか分かりませんけれども、^{よう}要するに^{ぎょうせいちょう}行政庁として、いやあ、もうこの^{じあん}事案^{かんこく}は^だ勧告^{かんこく}しますとか、こういう^だあっせん^い出しますというふう^{ぎょうせいちょう}に^だ言^{はんだん}って、その^{はんだん}行政庁^{ふふく}の出した^だ判断^{ふふく}に^だ不服^{ふふく}があれば、^{だいさんしゅきかん}第三者機関^{がわ}でどちら^{しんさ}側^{もと}も^だ審査^たを^{かんこく}求め^でられる。例えば、^だ勧告^{かんこく}が出^でちゃったんだけれども、この^{かんこく}勧告^{われわれさべつ}は、いや、^{せいとう}我々^{りゆう}差別^{なん}について^{かんこく}正当な理由^{おも}があるのに何^{だいさんしゅきかん}で^い勧告^いされ^いちゃうんだろうと思^いえば、^い第三者機関^いに^い言^{ぎゃくてん}って、もしかしたら^{ぎゃくてん}逆転^{ぎゃくてん}するかもしれないし、^{ぎゃく}逆に^{しょうがい}障害^{ひと}のある^{がわ}人^{どうぜんかんこく}の側^{おも}が^{おも}当然^{おも}勧告^{おも}してもら^{おも}えるだろうと思^{おも}ったたら、^{ぎょうせいちょう}行政庁^{せいとうりゆう}は、いや、これは^{じあん}正当理由^{ふとう}がある事案^{さべつてきとりあつか}なので「^{ふとう}不当な差別的^{ふとう}取扱^{ふとう}い」に^あ当た^{かんこく}らない、^だという^{かんこく}ことで^だ勧告^{かんこく}を出^ださなかつた^だと。勧告^{かんこく}を出^ださないのは^いひどい^いじゃないか^いと言^{だいさんしゅきかん}って、^い第三者機関^いにもう^い一回^い考^いえ^い直^いす^いように^いしてく^いださい^いとい^いう、ある^{しゅぎょうせいふふくしんさ}種^{しゅぎょうせいふふくしんさ}行政^{しゅぎょうせいふふくしんさ}不服^{しゅぎょうせいふふくしんさ}審査^{しゅぎょうせいふふくしんさ}的な^{しゅぎょうせいふふくしんさ}システム^{しゅぎょうせいふふくしんさ}になる^{しゅぎょうせいふふくしんさ}か^{しゅぎょうせいふふくしんさ}もしれ^{しゅぎょうせいふふくしんさ}ません^{しゅぎょうせいふふくしんさ}けれども、^{しゅぎょうせいふふくしんさ}そう^{しゅぎょうせいふふくしんさ}い^{しゅぎょうせいふふくしんさ}う^{しゅぎょうせいふふくしんさ}枠^{しゅぎょうせいふふくしんさ}組^{しゅぎょうせいふふくしんさ}みの^{しゅぎょうせいふふくしんさ}ほう^{しゅぎょうせいふふくしんさ}が、ある^{しゅぎょうせいふふくしんさ}意味^{しゅぎょうせいふふくしんさ}迅速^{しゅぎょうせいふふくしんさ}に^{しゅぎょうせいふふくしんさ}結^{しゅぎょうせいふふくしんさ}論^{しゅぎょうせいふふくしんさ}が、一旦^{しゅぎょうせいふふくしんさ}は^{しゅぎょうせいふふくしんさ}結^{しゅぎょうせいふふくしんさ}論^{しゅぎょうせいふふくしんさ}が^{しゅぎょうせいふふくしんさ}出^{しゅぎょうせいふふくしんさ}ると。その^{しゅぎょうせいふふくしんさ}結^{しゅぎょうせいふふくしんさ}論^{しゅぎょうせいふふくしんさ}に^{しゅぎょうせいふふくしんさ}不^{しゅぎょうせいふふくしんさ}服^{しゅぎょうせいふふくしんさ}がある^{しゅぎょうせいふふくしんさ}人^{しゅぎょうせいふふくしんさ}は^{しゅぎょうせいふふくしんさ}第^{しゅぎょうせいふふくしんさ}三^{しゅぎょうせいふふくしんさ}者^{しゅぎょうせいふふくしんさ}機^{しゅぎょうせいふふくしんさ}関^{しゅぎょうせいふふくしんさ}に、いや、^{しゅぎょうせいふふくしんさ}不^{しゅぎょうせいふふくしんさ}服^{しゅぎょうせいふふくしんさ}なん^{しゅぎょうせいふふくしんさ}です^{しゅぎょうせいふふくしんさ}けれ^{しゅぎょうせいふふくしんさ}ども^{しゅぎょうせいふふくしんさ}と^{しゅぎょうせいふふくしんさ}言^{しゅぎょうせいふふくしんさ}える^{しゅぎょうせいふふくしんさ}とい^{しゅぎょうせいふふくしんさ}う^{しゅぎょうせいふふくしんさ}枠^{しゅぎょうせいふふくしんさ}組^{しゅぎょうせいふふくしんさ}みの^{しゅぎょうせいふふくしんさ}つ^{しゅぎょうせいふふくしんさ}く^{しゅぎょうせいふふくしんさ}り^{しゅぎょうせいふふくしんさ}方^{しゅぎょうせいふふくしんさ}も^{しゅぎょうせいふふくしんさ}あ^{しゅぎょうせいふふくしんさ}る^{しゅぎょうせいふふくしんさ}と^{しゅぎょうせいふふくしんさ}思^{しゅぎょうせいふふくしんさ}う^{しゅぎょうせいふふくしんさ}ん^{しゅぎょうせいふふくしんさ}です^{しゅぎょうせいふふくしんさ}。

今の^{いま}ところ^{いま}の^{いま}枠^{わく}組^{くみ}みの^{くみ}つ^つく^くり^く方^{かた}は、^{さいしよ}最初^{けつろん}に^だ結^だ論^だは^だま^だだ^だ出^だして^だい^だな^だく^だて、^だや^だん^だわ^だり^だと^だ助^だ言^だと^だ調^だ整^だを^だや^だっ^だて、^だその^だや^だん^だわ^だり^だじ^だゃ^だち^だょ^だっ^だと^だう^だま^だく^だい^だか^だな^だい^だと^だき^だは^だ第^だ三^だ者^だ機^だ関^だに^だ持^だっ^だて^だい^だっ^だて、^だ助^だ言^だか、^だあ^だっ^だせ^だん^だか、^だ勧^だ告^だとい^だう、^だも^だっ^だと^だ厳^だし^だい^だ次^だの^だス^だテ^だッ^だプ^だに^だ移^だり^だま^だす^だよ^だとい^だう^だや^だり^だ方^だ、^だ2^だつ^だつ^だく^だり^だ方^だは^だあ^だり^だ得^だる^だ。ど^だっ^だち^だが^だい^だい^だか^だとい^だう^だのは^だ私^だ自^だ身^だは^だ今^だち^だょ^だっ^だと^だわ^だか^だつ^だて^だは^だい^だな^だい^だん^だです^だけれ^だども、^だ1^だつ^だの^だ参^だ考^だ事^だ例^だと^だす^だると、^だ今^だ申^だし^だ上^だげ^だた^だよ^だう^だに、^だま^だず^だは^だ行^だ政^だ庁^だと^だして^だ責^だ任^だ持^だっ^だて^だ結^だ論^だを^だ出^だして^だし^だま^だっ^だて、^だも^だち^だろ^だん、^だそ^だの^だ前^だ座^だで^だい^だろ^だう^だな^だ調^だ査^だだ^だと^だか^だ調^だ整^だは^だす^だる^だわ^だけ^だです^だけれ^だども、^だで^だも、^だ結^だ論^だは^だ出^だし^だま^だす^だと。出^ださ^だれ^だた^だ結^だ論^だに^だ対^だし^だて^だ不^だ服^だが^だあ^だつ^だたら、^だ第^だ三^だ者^だ機^だ関^だが^だ再^だ審^だ査^だし^だま^だす^だとい^だう^だや^だり^だ方^だな^だのか。

今^{いま}や^{いま}っ^{いま}て^{いま}い^{いま}る^{いま}のは、^いと^いり^いあ^いえ^いず^い前^い座^いは^い調^い整^いと^い助^い言^いを^いし^いま^いす^いと。で^いも、^いこ^いれ^いで^いう^いま^いく^いい^いか^いな^いか^いつ^いたら^い第^い三^い者^い機^い関^いに^い持^いっ^いて^いい^いっ^いて、^いも^いう^いち^いょ^いっ^いと^い厳^いし^いい^いや^いり^い方^いを^い考^いえ^いて^いく^いだ^いさ^いい^いとい^いう、^いど^いっ^いち^いが^いい^いい^いの^いか^いな^いとい^いう^いのは、^いち^いょ^いっ^いと^い考^いえ^いて^いい^いた^いだ^いい^いた^いほ^いう^いが^いい^いか^いも^いし^いれ^いな^いい^いし、^い八^い王^い子^い市^いで^いや^いっ^いて^いい^いる^いのは^いど^いん^いな^いふ^いう^いな^いの^いか^いな^いと、^い教^いえ^いて^いい^いた^いだ^いけ^いれ^いば^いと^い思^いい^いま^いす。

○^{かわうちぶかいちょう}川内^{はちおうじし}部^{かた}会^き長^き 八^{はち}王^{おう}子^じ市^しの^{はち}方^{おう}は^じ来^じて^{はち}い^{おう}ら^じっ^{はち}し^{おう}ゃ^じい^{はち}ま^じす^{はち}か。

○下川課長 八王子の方がきょうご欠席なので、申しわけありません。

○川内部会長 ちょっと情報を、今の池原さんの疑問に答えられる——答えられるというか情報を、集めていただけますか。次回でもご報告いただければ。

○下川課長 わかりました。

○川内部会長 今のようにいろいろな考え方がありますが、関哉さんは対話を重視するような方向で、相談というのを本当に重点を置いていくべきではないかというご意見だったろうと思います。他ご意見ありますか。どうぞ、山下さん。

○山下委員 青梅学園の山下です。

「不当な取扱い」、それと「合理的配慮」、その辺、県によって、先ほども見ましたが、対応が違うんだけれども、やっぱり取り扱いが違うんじゃないのかなと聞いていて思う。紛争の解決の方法についても、合理的配慮については、基本的には助言とか調整とかというところで対応していくべきだし、不当な対応については、これはやはり——まあ、もちろん最初は助言をしたり調整をして、修正してもらえますかということではいけるんだと思うんですけど、それでもなおかつ不当な取扱いをし続けることについては、先ほど池原さんのおっしゃったように、もう勧告するみたいなことってあっていいと思うんですけど、その辺の整理というのは、どういうふうになるのかなって質問を含めてなんです。部会長に質問することなのか、どうかよくわからないんですけども。

○川内部会長 それというのは、この資料3の5ページの、もういきなり論点③のほうにもちょっと入っていったんですが、論点の最初の丸です。「法が努力義務としている、事業者による合理的配慮の提供について、どのように規定すべきか」。つまり、例えば、都が義務としてしまうと、今ので言うと、かなり厳しい扱いになっていくし、それから努力義務だったらお互いにやんわりと何とか解決していきましようというような感じになっていくしということで、この事業者の「合理的配慮の提供」というのを義務と考えるかどうかということと連動してくるんじゃないかという感じがします。

ということで、3のほうを先に議論しないと進まないという感じになってきていますが、どうでしょう、その辺何かご意見ありますか。義務づけというのは、なかなか厳しいものがあるだろうという感じもしますが、何か皆さんの中でご意見というのがあれば出していただきたいと思います。何か重いですね。

きゅう おも
急に重くなりましたけれども。では、いけはら
池原さん。

○池原副会長 たぶん——まあ、努力義務か法的義務かという議論は1つ置いて
おいて、とりあえず法的義務だというふうに考えたときには、例えば勧告を、要
するにいろいろ議論を、調査とか、議論とか、あっせんとかやってきた中で、
最終的にはこの場合にはこういう合理的配慮をするのが適当だろうという結論に
いたれば、たぶん、多分こういう合理的配慮をなささいという、勧告を出すんだらうと思う
んです。ただ、その勧告は、では従わなかったらどうなるかと言っても、それは
たぶん条例レベルだと、公表しますとかというレベルになるんだらうと思うんで
すけれども、あとはその勧告を受けた障害のある人の側が、ここまではっきり
「合理的配慮をすべきだ」と言われているのにしていないので、それは結局、
こんど差別をしているのと同じ結果になるので、損害賠償請求をしますという
さいばん すす さいばん すす さいばん すす
裁判に進む、という解決の仕方になるんじゃないかと思うんですけれども。

それは裁判に持っていったときに、そういうある自治体で一定のこういう
具体的な、特定の合理的配慮をすべきだという結論が出ていることは、大きな
判断ファクターになるので、裁判所もかなり違法だという前提で損害賠償を認め
る可能性は出てくるだろうと思うんですけれども。

もう一つ、法的義務と努力義務のことにに関してなんですけれども、これは
かいしょうほう かいしょうほう
解消法もそう——まあ、努力義務というのを事業者はしているわけですが、ただ
努力義務というと、何かすごく緩くなっちゃうような感じはするんですけれども、
法的な努力義務なんです。だから、努力をしていない場合は法律違反、あるいは
じょうれいいはん じょうれいいはん
条例違反なので、そこは結構厳密に判断してもいい部分だとは思います。

例えば、同種同規模の事業者ができていることをしていないとすれば、それは
努力していないのではないかと強い推定が働くので、ほかでできていること
を何でお家でできていないんですかという話に対して適切な弁明ができなければ、
法的な努力義務違反なので、条例違反とか法律違反というふうな判断はできるだ
らうと思うんです。

○川内部会長 ささき
佐々木さん。

○佐々木委員 ささき いけん い
ただいま意見を言われたのは、どなたですか。

○川内部会長 かわうちぶかいちょう べんごし いけはら いま いけん
弁護士の池原さんが、今、意見を。

○佐々木委員 ささき いけん い
では、池原さんに質問なんですけれども、裁判のことで見通しを

ちょっとおっしゃったので、見通しで結構なんですけれども。都条例の中で、恐らく障害者差別解消法に対して、上乗せとか横出し——横出しというのかな、範囲を広げるの。横出しをもしかするとするかもしれないんですけれども、上乗せとか横出した部分も裁判した場合、訴えた側が勝ちそうですか。

○池原副部長 副部長の弁護士は池原なんですけれども、解消法自体が条例で横出しとか上乗せを期待しているというか、条例にかなり期待している部分があるので、条例で横出しとか上乗せをした場合には、それは一定の法規範ですから、それに違反していれば違法だという判断は出る根拠にはなるわけです。

ただ、個別の事例で、例えば合理的配慮とか不当な差別というあたりを、どう当てはめたり解釈するかというのは、その場合場合ですから、全て勝つとか負けるとかって、単純には言えないんですけれども、ただ、違法性の評価をするに当たって、重要なファクターにはなると思います。

○佐々木委員 都盲協の佐々木です。その辺が別に何でも裁判に訴えればという話じゃないんですけれども、ただそういう可能性、都条例の持つ可能性について判断する材料として伺いましたので、どうもありがとうございました。

○川内部会長 では、関哉さん。

○関哉委員 関哉です。事業者の合理的配慮の努力義務か義務かということについては、池原さんのほうから言われたとおりだと思うんですが、一般の市民から見れば、努力義務と義務というのは大きなイメージの違いがあると思います。そして、そもそも権利条約が事業者の合理的配慮を努力義務としているわけではなくて、むしろ義務まで求めていること、差別解消法自体も先ほど池原さんがおっしゃったように上乗せを期待しているというか、許容しているということ、多くの自治体が事業者の合理的配慮の義務化を、議論をした上で上乗せをしてきているという現状、その結果、大きな不都合があることは聞かれないこと、またおそらく合理的配慮を義務化することによって、啓発が浸透化して調整も進んでいくと思いますので、ぜひここは、個人的意見ではありますが、合理的配慮の義務化については、条例でぜひ上乗せしていただきたいなと思います。

○川内部会長 差別解消法の合理的配慮——まあ、努力義務と言われてはいますけれども、これには2つ安全装置があります。安全装置という言い方はおかしいけれども、クッションがあります。1つは、努力義務であるということが1つのク

ッションでして、もう一つのクッションは過重な負担でないということです。ですから、たとえ義務になっても過重な負担であるということであるならば、それはやらなくてもいいよということになっている。そこで1つ、既にクッションはあるということなんです。

今弁護士のお二人からご意見が出ましたけれども、ほかの方から何かご意見はありませんか。では、越智さん。

○越智委員 越智です。

この話し合いは次回も続くと思いますので、ちょっと確認をさせてください。事業者の範囲ということについて確認をさせてください。今話し合っているのは、直接障害者にかかわる事業者だと思っんです。窓口ですとかサービス事業者とか移送業者とか。でも、間接的にかかわる部分もあると思っんです。製造業者の場合、障害者にとって使いやすい、あるいは逆に使いにくい商品を出した場合、不当と言えるのか。法的な努力義務みたいなものを盛り込むことができるんでしょうか。

○川内部会長 つまり、障害のある方のために使いやすいような商品を開発するように努めなくてはいけないというような規定ができるのかということですね。

○越智委員 そうですね。

○川内部会長 ちょっと想定以上に話が広がってきていると思いますが、とりあえずは——とりあえずはという言い方はまた誤解を招きますが、障害のある方が日常生活で接する部分での問題、というところに絞って考えていただきたいなというふうに思います。

というのは、マーケットの中でそれしかないというわけではなくて、買うか買わないかというのは、相変わらずこちらの消費者のほうにあるわけなので、製造業の向こう側で、使いにくい品物ばかりつくっているからだめじゃないか、という言い方はちょっとできないんじゃないか。ある方には使いにくくて、ある方には使えるものばかりだと思っ。そうでないと売れないわけですから。

ちょっとそこは、議論から除きたいと思います。

○越智委員 わかりました。

○川内部会長 これはさっきの義務化するかどうかというようなこと、それからその後の紛争解決の仕組みです。この図がついてきていますけれども、これにつ

いては次回も少しお話を、議論しなくちゃいけないと思いますが、きょうの段階で皆さんどうされますか。少しお持ち帰りになりますか。入り口としてというか、議論の根本として努力義務、事業者の合理的配慮の提供を義務とするかどうかというところが後の体制を決めてくるんじゃないかというところまでははっきりしました。努力義務の場合だと、割とふんわりとしたところになりますけれども、義務になるともうちょっと厳しくいくんじゃないか、というようなところまではわかってきました。なので、ではその根本となる義務にするのか、「義務」と条例で書くのかどうかということについて、ちょっと皆さんお持ち帰って、ご自身の団体なんかとも少しご相談いただければと思います。

○中島委員 ちょっと1つ聞きたいことがある。いいですか。

さっき池原先生ですか、努力というのが、ほかの事業所はやっている、似たようなところがやっていてここがやっていないのは、努力していないからじゃないかということでしたけれども、それって過重な負担とどこが違うのかなという。つまり、過重ではないでしょうと、ほかがやっているからということになってしまふんで、純粋に努力不足というのは、法的にどう証明できるのかというのをちょっとお聞きしたいんですが。

○池原副部長 副部長の池原ですけれども、やや単純な議論の仕方かもしれませんが、どんな事例がいいか余り浮かばないんですが、同種同規模の事業者でAという事業者はある合理的配慮を行っているという事実があって、全くそれとほとんど変わらないBという会社が、いや、うちではそれはできないんですとか、していないんですというときに、していないという事実、要するにそれは確かにおっしゃるように、そもそも過重な負担にも当たらないだろう、同種同規模でできているんだからということでもあるかもしれませんが、少なくとも努力をしていないという推定が働くというふうに、考えていいのではないかというふうに思っているわけです。

○中島委員 だから、そこがはっきりしないと、この文言を入れるか入れないかがはっきりしないと思うんです。これはもう本当に条例に書くというわけだから、確かに裁判まで場合によっては行ってしまう話なんで。そこを弁護士の方にはっきりと、これが努力不足だ、しかも、それは全ての人に目に見える形でしっかりと立証できるという形にまで持っていったいかないと、この文言を入れるかど

うかというのは議論できないと思います。考^{かんが}えてはきますけれども。

○池原副部^{いけはらふくぶかいちょう}会^{かい}長^{ちやう} 副部^{ふくぶかいちょう}会^{かい}長^{ちやう}の池原ですけれども、そういう意味で言うと、過^{かじゅう}重^{じゅう}な負担^{ふたん}の抗弁^{かうべん}があるという前提^{ぜんてい}のもとで努力義務^{どりよくぎむ}化^かするということ自体^{じたい}が、ある意味^{いみ}で、法律^{ほうりつ}のつくり方^{かた}としては少し変^{へん}なんです。むしろ、過^{かじゅう}重^{じゅう}な負担^{ふたん}の抗弁^{かうべん}がなければ、努力義務^{どりよくぎむ}化^かしておかないと逃げ道^{にみち}がなくなるわけですけれども、過^{かじゅう}重^{じゅう}な負担^{ふたん}の抗弁^{かうべん}がくっついていれば、わざわざ努力義務^{どりよくぎむ}にしなくても、それはうちの事業^{じぎょう}者^{しゃ}としてはもう規模^{きぼ}から考^{かんが}えて、過^{かじゅう}重^{じゅう}な負担^{ふたん}になるのでできませんと言^いえば済^すむ話^{はなし}になるので。

○川内部^{かわうちぶかいちょう}会^{かい}長^{ちやう} 今^{いま}の議論^{ぎろん}というのは、結局^{けっきょく}のところ、過^{かじゅう}重^{じゅう}な負担^{ふたん}というのがあるんだから、義務^{ぎむ}にしても、努力義務^{どりよくぎむ}のままでも、余^{あま}り違^{ちが}わないということになるんですか。

○池原副部^{いけはらふくぶかいちょう}会^{かい}長^{ちやう} かえって混乱^{こんらん}するということだと思^{おも}います。

○川内部^{かわうちぶかいちょう}会^{かい}長^{ちやう} だから、クッションが2つあることが、かえって混乱^{こんらん}するということですね。

○池原副部^{いけはらふくぶかいちょう}会^{かい}長^{ちやう} ええ。

○川内部^{かわうちぶかいちょう}会^{かい}長^{ちやう} 今^{いま}のは池原^{いけはら}さんの個人^{こじん}的^{てき}な意見^{いけん}ということだとめていただければと思^{おも}いますが、皆^{みな}さん、ちょっ^しと時間^{かん}も来^きていますので、私^{わたし}は授業^{じゅぎょう}で宿題^{しゅくだい}を出^だすのは大^{だい}好き^すですけれども、宿題^{しゅくだい}で皆^{みな}さん内部^{ないぶ}でちょっ^しと議論^{ぎろん}をしていただければというふうに思^{おも}います。ということで、事務局^{じむきょく}にお渡^{わた}しします。

○下川課^{しもかわかちょう}長^{ちやう} 本^{ほん}当^{とう}に活発^{かつぱつ}なご議論^{ぎろん}をありがとうございました。次^{じかい}回^{かい}も引^ひき続^{つづ}き相談^{そうだん}・紛争^{ふんそう}解決^{かいけつ}は議題^{ぎだい}になってきますので、今^{いま}お話^{はなし}のあつた事業^{じぎょう}者^{しゃ}の部^ぶ分^{ぶん}、それからできれば都民^{とみん}のところもどう規定^{きてい}すべきかというようなあたり、ご検討^{けんとう}いただければと思^{おも}います。追加^{ついか}のご意見^{いけん}なども、事務局^{じむきょく}のほうにいただければというふう^{おも}に思^{おも}っております。

つづきまして、最後^{さいご}になりますけれども、事務局^{じむきょく}から事業^{じぎょう}者^{しゃ}ヒアリングなどについ^{あんない}てご案内^{あんない}をさせていただきたいと思^{おも}います。

資料^{しりょう}4をござらんください。事業^{じぎょう}者^{しゃ}ヒアリングですけれども、5月^{がつ}に障害^{しょうがい}者^{しゃ}、当事^{とうじ}者^{しゃ}団^{だん}体^{たい}の皆^{みな}さんからのヒアリングをしましたけれども、今^{こんかい}回は事業^{じぎょう}者^{しゃ}の皆^{みな}さん方^{がた}からのヒアリングをしたいということで、ここ^かに書^かいてあります7月^{がつ}13日^{にち}と14日^か、2日^か間^{かん}の日程^{にってい}に分^わけて、事業^{じぎょう}者^{しゃ}のヒアリングをしたいというふう^{かんが}に考^{かんが}え

ています。場所は前回と同じく、東京都社会福祉保健医療研修センターということになっております。もし、ご都合がつきそうな委員の方、聞いてみたいという方がいらっしゃれば参加が可能ですので、よろしくお願いいたします。

それから、今後の部会の日程につきましては、資料5のほうにも掲載をさせていただいておりますけれども、少し間があきますが、8月21日月曜日の16時から18時までです。午後4時から6時までを予定しておりますので、また議事の詳細につきましては確定次第、ご案内をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、これで会議を終了とさせていただきますが、配布資料の中でファイリングをしてあります緑とピンクのもの、それからイエローカードについては、そのまま机の上にお残しいただきますよう、よろしくお願いいたします。そのほかの資料については、お持ち帰りいただいて結構です。もし、郵送をご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局のほうまでお声をかけていただければと思います。

では、ありがとうございました。

○川内部長 ありがとうございました。

先ほどの宿題ですけれども、可能であるならば、団体としてのご意見がもしまとまったところは、できれば事務局のほうに文書か何かを送っていただければ、これこれこういう理由でこう考える、というようなところを出していただければと思います。無理なものは無理で結構ですけれども、出せればということでお願いいたします。では、どうもありがとうございました。

○下川課長 本日はどうもありがとうございました。

午後7時02分 閉会

(参考資料工 終了)